

愛称: りそな
ペア・インカム

CA米国・ユーロ投資適格債ファンド
追加型証券投資信託 / ファンド・オブ・ファンズ

本投資信託説明書（目論見書）は、前半部分は「C A米国・ユーロ投資適格債ファンド」の「投資信託説明書（交付目論見書）」、後半部分は同ファンドの「投資信託説明書（請求目論見書）」から構成されています。

本書は、証券取引法第 13 条の規定に基づく目論見書です。

CA 米国・ユーロ投資適格債ファンド
追加型証券投資信託/ファンド・オブ・ファンズ

投資信託説明書(交付目論見書)
2006年2月

クレディ・アグリコル アセットマネジメント株式会社

1. 本投資信託説明書（交付目論見書）により行う「CA 米国・ユーロ投資適格債ファンド」の受益証券の募集については、委託者は、証券取引法（昭和 23 年法第 25 号）の第 5 条の規定により有価証券届出書を平成 18 年 2 月 10 日に関東財務局長に提出しており、平成 18 年 2 月 11 日にその届出の効力が生じております。
2. 本投資信託説明書（交付目論見書）は、証券取引法第 13 条の規定に基づく目論見書のうち、同法第 15 条第 2 項の規定に基づき、投資家がファンドを取得する際にあらかじめ、または同時に交付を行う目論見書です。
また、当該有価証券届出書第三部の内容を記載した投資信託説明書（請求目論見書）については、販売会社に対して投資家の請求により交付いたします。なお、販売会社に投資信託説明書（請求目論見書）をご請求された場合には、その旨をご自身で記録しておくようにしてください。
3. 「CA 米国・ユーロ投資適格債ファンド」の受益証券の価額は、同ファンドに組入れられている有価証券等の値動きや為替の変動による影響を受けますが、これらの運用による損益はすべて投資家の皆様に帰属いたします。
4. ファンドは元本及び分配金が保証されているものではありません。

投資信託は、その商品の性格から次の特徴をご理解のうえご購入くださいますようお願い申し上げます。

- ・投資信託は預金ではありません。
- ・投資信託は金融債ではありません。
- ・投資信託は預金保険の対象となりません。
- ・投資信託は値動きのある証券に投資するため、投資元本及び分配金が保証された商品ではありません。
- ・投資信託の設定・運用は投資信託委託会社が行います(証券会社・銀行は販売の窓口となります)。
- ・投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客さまが負うこととなります。
- ・登録金融機関を通じてご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。

（金融商品の販売等に関する法律に係る重要事項）

当ファンドは、主に内外の投資信託証券を通じて外貨建ての債券を投資対象としていますので、金利変動による組入債券の価格下落や、組入債券の発行体の倒産や財務状況の悪化及びそれらに関する外部評価の変化等により、基準価額は影響を受け、損失を被ることがあります。また、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資信託説明書(交付目論見書)目次

ファンドの概要について

ファンドの概要	1
---------	---

ファンドの運用内容について

ファンドの特色	4
投資方針	5
投資対象	12
分配方針	13
投資制限	14

ファンドのリスクについて

ファンドの主なリスク	16
その他の留意点	17

ファンドのしくみについて

ファンドのしくみ	18
委託会社の概要	19
運用体制及びリスク管理体制	20

ファンドの申込方法について

買付(販売)の申込手続	21
換金(解約)の申込手続	22

ファンドにかかる費用・税金について

お客様に直接ご負担いただく費用・税金	23
ファンドで間接的にご負担いただく費用	23
税金の取扱	24

ファンドの運営方法について・その他

管理及び運営の概要	26
内国投資信託受益証券事務の概要	29
その他ファンドの情報	30
投資信託説明書(請求目論見書)の記載項目	30

ファンドの運用状況について

ファンドの運用状況	31
ファンドの財務ハイライト情報	35

【信託約款】

	39
--	----

ファンドの概要

ファンドの名称	CA 米国・ユーロ投資適格債ファンド
商品分類	追加型証券投資信託 / ファンド・オブ・ファンズ
ファンドの目的	当ファンドは、ファンド・オブ・ファンズ方式で運用することを基本とします。主として、米国債券市場(社債等)へ投資するファンドとユーロ債券市場(国債等公共債・国際機関債・社債等)へ投資するファンドの毎月分配クラスに投資することにより、その実質的な運用はそれぞれの投資先ファンドが行い、中長期的な信託財産の着実な成長と安定的な収益確保を図ることを目指して運用を行うことを基本方針とします。
主な投資対象	主として、米国債券市場へ投資する投資信託証券「ドイチェ・米国投資適格社債ファンド(適格機関投資家専用)」及びユーロ債券市場へ投資する投資信託証券「CAF ユーロ・ボンド・ファンド」及び「CAF ユーロ・コーポレート・ボンド・ファンド」の毎月分配クラスに投資します。
信託設定日	平成 15 年 11 月 14 日(金)
信託期間	無期限
決算日	毎月(12 日、休日の場合は翌営業日)
収益分配	毎決算時に、収益分配方針に基づいて行います。
募集期間	平成 18 年 2 月 11 日(土)～平成 19 年 2 月 9 日(金) * 募集期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。
募集上限	5,000 億円
取得のお申込み	原則としていつでもお申込みできます。 ただし、ファンドの休業日 にあたる場合は、お申込みできません。 日本の証券取引所の休業日、パリ、ルクセンブルグの銀行休業日及びニューヨーク証券取引所の休業日あるいは米国債券市場協会が定める休業日のいずれかに該当する場合はファンドの休業日となります。

取得のお申込単位	<p>1万円以上1円単位または1万口以上1万口単位</p> <p>お申込には「自動けいぞく投資コース」*1と「一般コース」*2の2つがあります。ただし、販売会社によっては、どちらか一方のみの取扱となる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。</p> <p>*1 「自動けいぞく投資コース」は、分配金を税引後、無手数料で自動的に再投資するコースです。ただし販売会社によっては、自動的に分配金の再投資を行わず、収益の分配が行われたときに分配金を受取ることを選択することもできます。</p> <p>*2 「一般コース」は、収益分配時に分配金を受取るコースです。</p>
お申込価額	お申込日の翌営業日の基準価額
お申込手数料	2.1% (税抜2.0%) を上限に販売会社が定めるものとします。
途中解約	<p>原則としていつでも解約できます。</p> <p>ただし、ファンドの休業日にあたる場合は、お申込みできません。</p> <p>「解約請求」または「買取請求」によりお申込みいただけます。ただし、買取の取扱については販売会社によって異なりますので、お申込みの販売会社にお問い合わせください。</p>
解約単位	1口単位または1万口単位
解約価額	解約請求受付日の翌営業日の基準価額
信託財産留保額	なし
解約代金のお支払い	解約請求を受付けた日から起算して、原則として5営業日目からお支払いします。
信託報酬	<p>信託財産の純資産総額に対し、年率0.8715% (税抜0.83%)以内を乗じて得た金額。</p> <p>《現状0.714% (税抜0.68%)》</p> <p>この他、組入投資信託証券においても信託報酬がかかります。</p>

税金等	後記「ファンドにかかる費用・税金」をご覧ください。
委託会社	クレディ・アグリコル アセットマネジメント株式会社
受託会社	りそな信託銀行株式会社

【基準価額、解約価額及び販売会社について委託会社の照会先】

クレディ・アグリコル アセットマネジメント株式会社

お客様サポートライン

電話番号 : 0120-202-900 (フリーダイヤル)

受付時間 : 月曜日～金曜日(祝休日を除く)の午前9時～午後5時

(半日営業日は午前9時～午前11時半)

インターネットホームページ : <http://www.jp.ca-assetmanagement.com>

ファンドの特色

当ファンドは、ファンド・オブ・ファンズ方式で運用することを基本とします。主として、米国債券市場(社債等)へ投資するファンドとユーロ債券市場(国債等公共債・国際機関債・社債等)へ投資するファンドの毎月分配クラスに投資することにより、その実質的な運用はそれぞれの投資先ファンドが行い、中長期的な信託財産の着実な成長と安定的な収益確保を図ることを目指して運用を行うことを基本方針とします。

ファンドの特徴：

1. 米国・ユーロ各国の国債等公共債、国際機関債、社債等へ幅広く投資することにより、高いインカム収益の獲得を目指します。
2. **ファンド・オブ・ファンズ***方式で運用します。
 - ・ 米国債券とユーロ債券のファンドに原則として均等配分で分散投資します。
 - ・ 主として、ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が運用する「ドイチェ・米国投資適格社債ファンド(適格機関投資家専用)」とクレディ・アグリコル アセットマネジメント・エス・エーが運用する「CAF ユーロ・ボンド・ファンド」及び「CAF ユーロ・コーポレート・ボンド・ファンド」の毎月分配クラスに投資します。
3. 投資信託証券への投資の結果、全体のポートフォリオの格付が、原則としてシングル A 格【A 一格(スタンダード&プアーズ社)/A3 格(ムーディーズ社)]以上とすることを目指します。また、当ファンドが投資する投資信託証券は、それぞれ米国とユーロの投資適格債券(トリプル B 格(BBB-/Baa3)以上)を原則として組入れます。
4. 毎月分配を行います。
 - ・ 毎月 12 日(休日の場合は翌営業日)が決算日です。
 - ・ 分配金*は、原則として決算日から起算して 5 営業日目以降にお支払いします。
5. 原則として、**為替ヘッジを行いません。**

* 投資信託のことをファンドといい、ファンド・オブ・ファンズとは投資信託に投資する投資信託のことをいいます。一般的な投資信託は株式や債券に投資しますが、ファンド・オブ・ファンズは、複数の投資信託に投資します。即ち、一つのファンドが他の複数のファンドに分散投資を行う仕組みです。投資先の投資信託から株式や債券などへ投資します。

*原則として、インカム・ゲイン(債券のクーポン収入等)から分配金をお支払いします。また、原則として、キャピタル・ゲイン(債券の売買益(評価益を含む)、償還差益、為替差益等)は分配準備積立金として積立てますが、分配金の支払に充てることもあります。

当ファンドは、ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行い、投資信託に投資した結果得られるインカム・ゲイン(分配金等)やキャピタル・ゲイン(売買益、評価益等)を分配原資とします。

当ファンドの信託金の限度額は、5,000 億円です。ただし、受託会社と合意のうえ、当該限度額を変更することができます。

ファンド・オブ・ファンズ方式の投資によるメリット

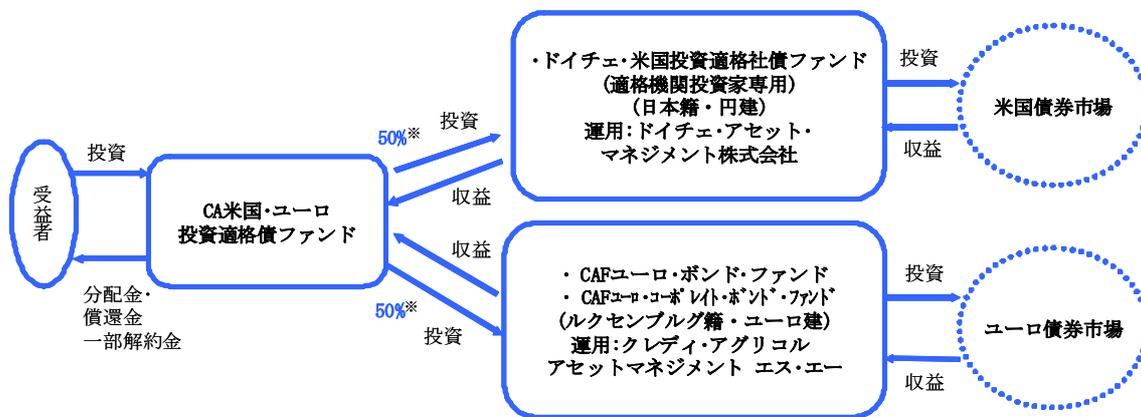
- ・資産規模の大きなファンドへ投資することによって幅広い分散投資を可能にします。
- ・少額でも効率よく資産運用できるので投資コストの軽減が図れます。
- ・既に運用実績のあるファンドに投資ができます。

当ファンドは、主として、米国債券市場(社債等)へ投資するファンドとユーロ債券市場(国債等公共債・国際機関債・社債等)へ投資するファンドに投資します。

「ドイチェ・米国投資適格社債ファンド(適格機関投資家専用)」は、当ファンドの日本での設定にあたり新たに設定された国内籍の契約型私募投資信託です。

「CAFユーロ・ボンド・ファンド」及び「CAFユーロ・コーポレート・ボンド・ファンド」の毎月分配クラスは、ルクセンブルグ籍の会社型投資信託で、既存クラスと合せて合同運用が行われます。

【イメージ図】



*キャッシュ・ポジションを除いた資産におけるおよその比率です。この比率は、変更することがあります。

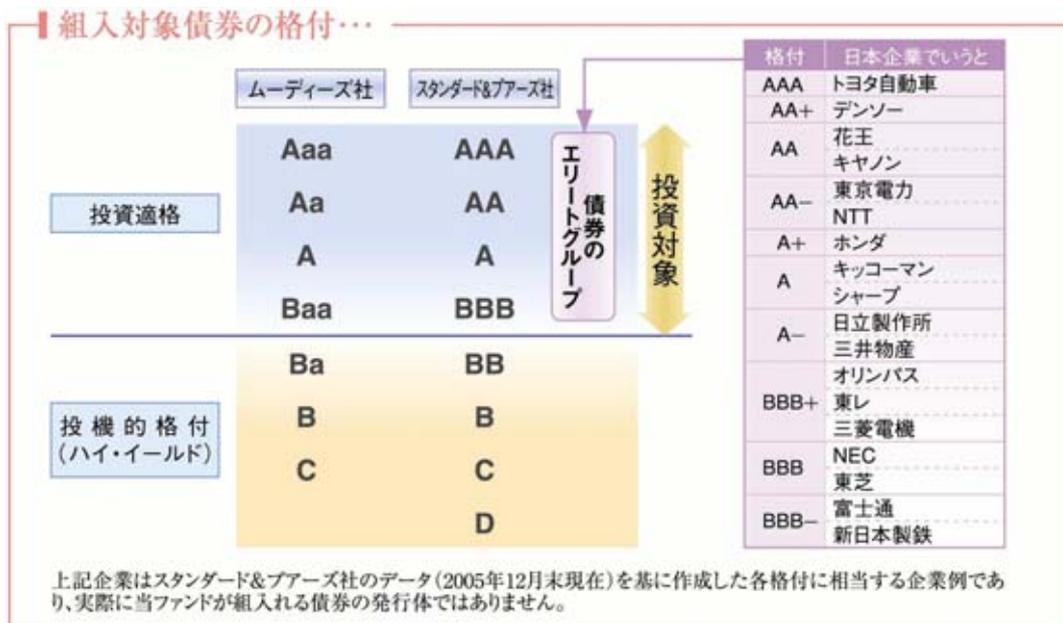
投資方針

当ファンドは、ファンド・オブ・ファンズの方式で運用することを基本とします。主として、米国債券市場(社債等)へ投資する日本籍の「ドイチェ・米国投資適格社債ファンド(適格機関投資家専用)」と、ユーロ債券市場(国債等公共債・国際機関債・社債等)へ投資するルクセンブルグ籍の「CAF ユーロ・ボンド・ファンド」及び「CAF ユーロ・コーポレート・ボンド・ファンド」の毎月分配クラスに投資することにより、その実質的な運用はそれぞれの投資先ファンドが行い、中長期的な信託財産の着実な成長と安定的な収益確保を図ることを目指して運用を行うことを基本方針とします。

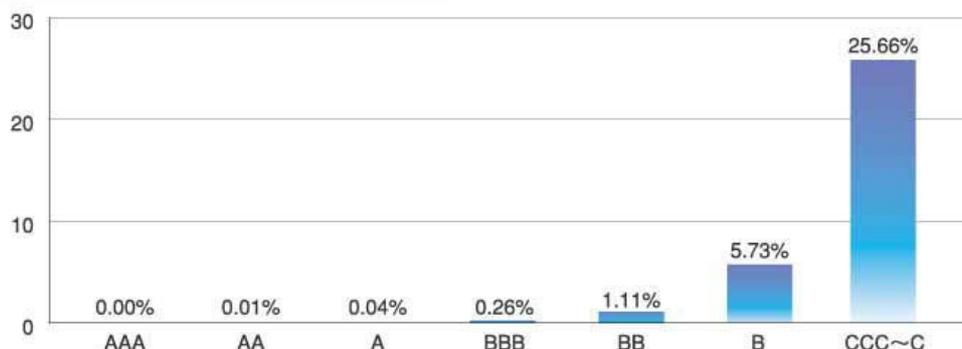
- 国債等公共債 : 国が発行する債券が国債、地方自治体が発行する債券が地方債、国が直接監督している公庫、公団、事業団などの法人が発行する債券が政府機関債であり、これらをまとめて公共債といいます。
- 国際機関債 : 国際機関が発行する債券です。
- 社債 : 企業が発行する債券です。民間の事業会社が発行する事業債、転換社債及び新株引受権付社債(ワラント債)のことを指します。

なお、CP、CD、預金、指定金銭信託、コール・ローン及び手形割引市場において売買される手形に直接投資することがあります。原則として、為替ヘッジは行いません。

- ① 主として、米国債券市場へ投資する投資信託証券「ドイチェ・米国投資適格社債ファンド(適格機関投資家専用)」とユーロ債券市場へ投資する投資信託証券「CAF ユーロ・ボンド・ファンド」及び「CAF ユーロ・コーポレート・ボンド・ファンド」の毎月分配クラスに投資します。
 - ② 米国債券市場(社債等)へ投資するファンドとユーロ債券市場(国債等公共債・国際機関債・社債等)へ投資するファンドの組入比率は、原則として、均等配分を基本とします。委託会社の判断により、為替や各投資信託証券の基準価額の変動を考慮し、3ヵ月毎にリバランスを行います。
 - ③ 投資信託証券の組入比率は、原則として高位を維持することを基本とします。
 - ④ 投資信託証券への投資にあたっては、委託会社が指定する投資信託証券を通して、分散投資を行うことを基本とします。投資信託証券への投資の結果、全体のポートフォリオの格付^{※1}が、原則としてシングルA格【A-格(スタンダード&プアーズ社)/A3格(ムーディーズ社)]以上とすることを目指します。また、各投資信託証券の組入対象債券の格付は、原則として、投資適格債(トリプルB格【BBB-格/Baa3格]以上)とします。
 - ⑤ 組入投資信託証券は、委託会社の判断により、適宜見直しを行います。この場合において、組入対象とされていた投資信託証券は、変更されることがあります。
 - ⑥ 資金動向、市況動向等の急変により前記の運用が困難となった場合、暫定的に前記と異なる運用を行う場合があります。
- ※1 「格付」とは、債券などの元本及び利息が償還まで当初契約の定め通り返済される確実性の程度を評価したものをいいます。信用度の低い格付をもつ債券ほど、元本及び利息が償還まで定め通りに返済される確実性が低く(信用リスクが大き)くなります。



過去20年間の年間平均デフォルト率



出所:スタンダード&プアーズ社、「グローバル・デフォルト・スタディー2004年版」より、クレディ・アグリコル アセットマネジメント(株)が作成

【投資対象ファンド概要】

当ファンドは、主として、米国債券市場(社債等)へ投資するファンドとユーロ債券市場(国債等公共債・国際機関債・社債等)へ投資するファンドに投資します。

「ドイチェ・米国投資適格社債ファンド(適格機関投資家専用)」は、当ファンドの日本での設定にあたり新たに設定された国内籍の契約型私募投資信託です。

「CAF ユーロ・ボンド・ファンド」及び「CAF ユーロ・コーポレート・ボンド・ファンド」の毎月分配クラスは、ルクセンブルグ籍の会社型投資信託で、既存クラスと合せて合同運用が行われます。

『ドイチェ・米国投資適格社債ファンド(適格機関投資家専用)』 (日本籍)(円建)

設定日	: 2003年11月17日
ベンチマーク	: リーマン・ブラザーズ・米国コーポレート・ボンド・インデックス ^{※1}
純資産	: 43,652百万円(2005年12月末現在)
信託報酬	: 年率0.5775%(税抜年率0.55%)
運用会社	: ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社
投資顧問会社	: ドイチェ・インベストメント・マネジメント・アメリカズ・インク

※1 ベンチマークはマザーファンドのものです。

《ファンドの特徴》

1. 主にドイチェ・米国投資適格社債マザーファンドへの投資を通じて、米国の事業債に幅広く分散投資を行うことで、個別銘柄のリスクを最小限に抑えつつ、信託財産の長期的な成長とインカム・ゲイン^{※2}の確保を目指して運用を行います。
2. ポートフォリオの平均格付は、原則としてA格相当以上に維持することを目指します。
実質的に投資を行う公社債は、原則として投資適格の格付(BBB格相当以上)を付与された債券及び同等の信用度をもつ債券とします。
3. 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

*資金動向や市況動向によっては、前記のような運用ができない場合があります。

※2 インカム・ゲインとは、公社債や預金の利息収入、株式の配当のことをいいます。

《ポートフォリオ現況》 (2005年12月末現在)

平均格付: A

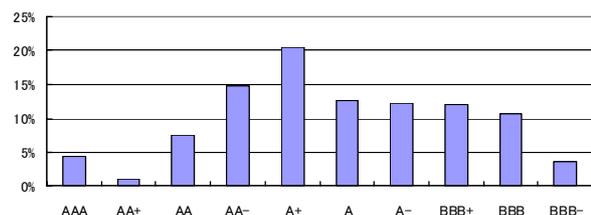
平均最終利回り: 5.30%

平均直接利回り^{※3}: 6.60%

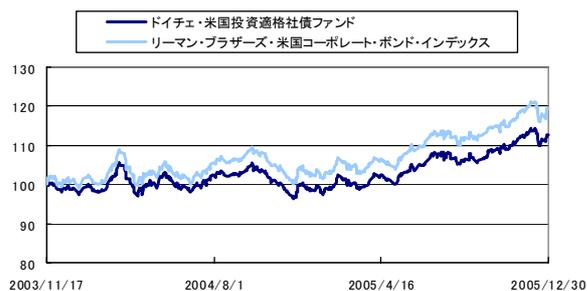
修正デュレーション^{※4}: 5.94

銘柄数: 130銘柄

《組入債券格付別分布》 (2005年12月末現在)

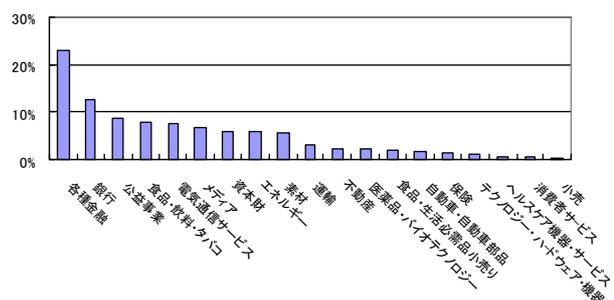


《パフォーマンス推移》 (2005年12月末現在)



*2003年11月17日を100として指数化

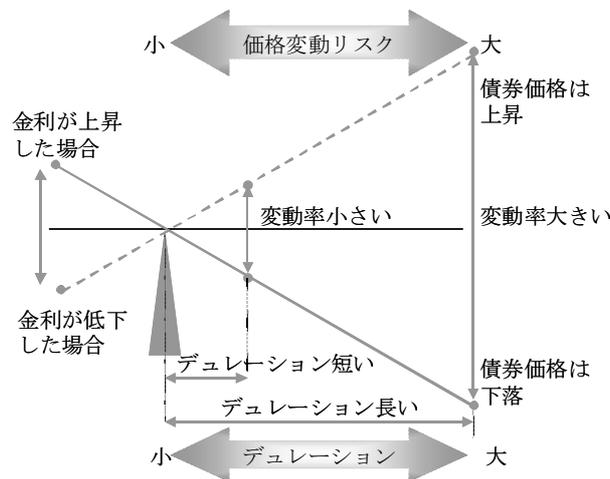
《組入債券業種別分布》 (2005年12月末現在)



※³ 直接利回りは「直利」ともいい、利付債のみに用いられる利回りの計算方法です。直接利回りは、毎年の利子のみを考え、この利子が投資元本に対して年率何%になるかをみるものです。償還差損益が生じる場合でも、これらを一概無視して投資元本(取得価格)に対して毎年何%に相当する収益(利子)が入るかを単純に計算します。

※⁴ 「デュレーション」とは、債券の価格変動リスクの大きさを示す尺度の1つです。デュレーション(Duration)は「期間」という意味で、債券から将来得られるキャッシュ・フロー(利息や償還金)の得られるまでの期間が長いほど大きい値となります。簡単に言えば、満期の長い債券(長期債)ほどデュレーションは大きく、価格変動リスクが大きいことを示します。保有債券全体について平均デュレーションを求め、ポートフォリオのリスク尺度とすることが一般的です。

「修正デュレーション」とは、金利が変動した場合の価格変動性を表す尺度で、利回り価格曲線の接線の傾きを価格で割ったものです。利回りが1%変化した場合に、債券価格が何%変化するかというリスク指標となります。修正デュレーションが5というのは、金利が1%動いた場合に価格が5%動くということを意味します。修正デュレーションは、利率が低い債券ほど大きくなり、また、残存期間が長い債券ほど大きくなります。つまり利率が低い債券ほど、また残存期間が長い債券ほど、金利変動に対する価格変動性が大きいといえます。今後、金利が低下すると予測できる場合は修正デュレーションを大きくし、金利が上昇すると予測される場合は修正デュレーションを小さくすることで、ポートフォリオのリスク管理を行うことができます。



《ドイチェ・アセット・マネジメント・グループ》

ドイツ銀行グループの一員として、世界20カ国以上に拠点を設け、グローバルに資産運用サービスを展開しています。

ファンド・マネジャーおよびリサーチ・スペシャリストが、緊密なチーム体制のもと、グローバルな観点と独自の洞察力で調査・分析、運用業務などを推進しています。

『CAF ユーロ・ボンド・ファンド』 (ルクセンブルグ籍会社型投資信託) (ユーロ建)

設定日	: 1991年1月2日
ベンチマーク	: リーマン・ユーロ・アグリゲイト・インデックス
純資産	: 約 284.1 百万ユーロ (約 397.3 億円@139.83 円) (2005年12月末現在)
信託報酬	: 税抜年率 0.5%以内 (毎月分配クラス)
運用会社	: クレディ・アグリコル アセットマネジメント・エス・エー

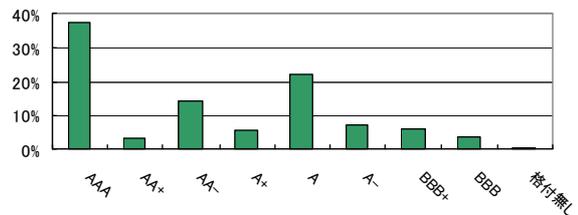
《ファンドの特徴》

1. ユーロ建の国債・公共債・国際機関債・社債等に投資します。
債券の発行体としてはユーロ圏の国・企業が中心となります。
2. 高格付債を中心に投資します。
組入債券の最低格付は原則としてトリプル B 格 (BBB-/Baa3) とします。

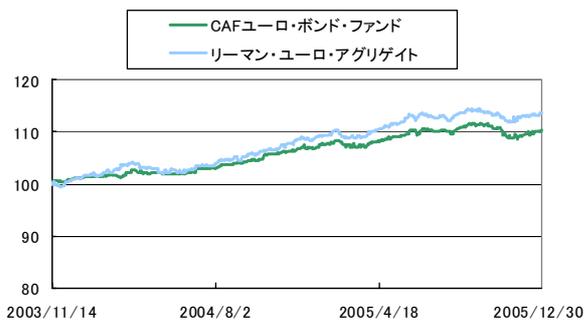
《ポートフォリオ現況》 (2005年12月末現在)

平均格付 : A+
 平均最終利回り : 3.24%
 平均直接利回り : 3.96%
 修正デュレーション : 5.68
 銘柄数 : 129 銘柄

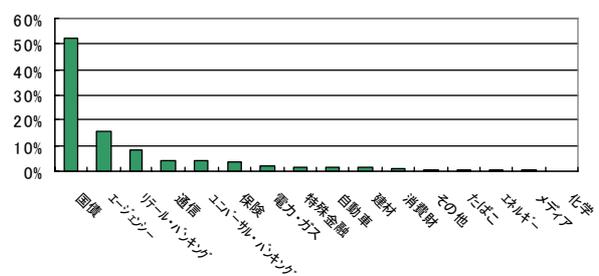
《組入債券格付別分布》 (2005年12月末現在)



《パフォーマンス推移》 (2005年12月末現在)



《組入債券業種別分布》 (2005年12月末現在)



*2003年11月14日を100として指数化 (ユーロベース、諸費用控除前)

『CAF ユーロ・コーポレート・ボンド・ファンド』（ルクセンブルグ籍会社型投資信託）（ユーロ建）

設定日	: 1999年2月1日
ベンチマーク	: リーマン・ユーロ・コーポレート・インデックス
純資産	: 約1,062.2百万ユーロ(約1,485.3億円@139.83円)(2005年12月末現在)
信託報酬	: 税抜年率0.5%以内(毎月分配クラス)
運用会社	: クレディ・アグリコル アセットマネジメント・エス・エー

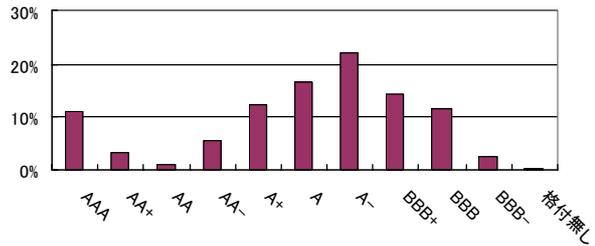
《ファンドの特徴》

1. 主として欧州または欧州以外の企業が発行する、欧州市場で取引されるユーロ建の固定金利商品、変動金利商品及びデット証券に投資します。
 - ・企業のセクターに制限はありません。
 - ・EMU圏の政府が発行する、または保証する債券にも投資します。
2. スタンダード&プアーズ社やムーディーズ社より投資適格(BBB格/Baa3格以上)と格付されている社債に投資します。
3. インカム・ゲインとキャピタル・ゲインによるリターンを最大化させることを目指します。

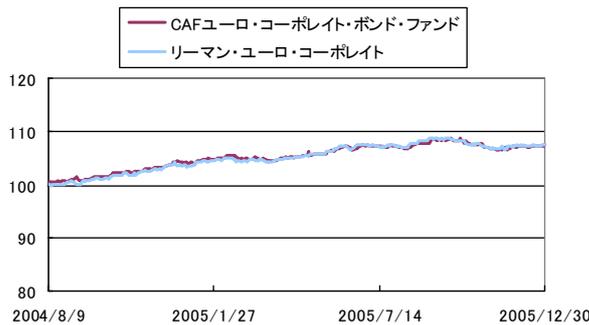
《ポートフォリオ現況》 (2005年12月末現在)

平均格付 : A-
 平均最終利回り : 3.54%
 平均直接利回り : 4.48%
 修正デュレーション : 4.63
 銘柄数 : 124 銘柄

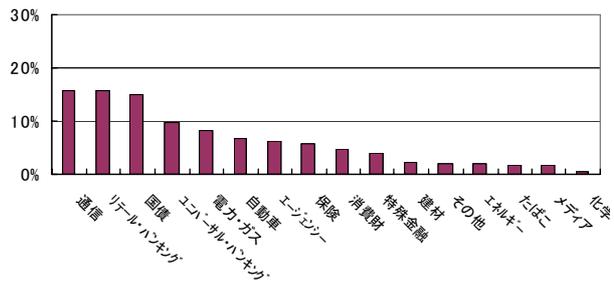
《組入債券格付別分布》 (2005年12月末現在)



《パフォーマンス推移》 (2005年12月末現在)



《組入債券業種別分布》 (2005年12月末現在)



*2004年8月9日を100として指数化(ユーロベース、諸費用控除前)

《クレディ・アグリコル アセットマネジメント・エス・エー概要》

クレディ・アグリコル アセットマネジメント・エス・エーは、クレディ・アグリコル・グループの資産運用部門の総称で、パリ(フランス)に本社をおきます。欧州をはじめ、アジア、米国に活動拠点をもち、グローバルな運用体制を有します。市場、スタイル、種類において、多岐にわたる商品を提供しております。

クレディ・アグリコル アセットマネジメント・エス・エーの運用資産残高は約3,333億ユーロ^{*}(約46兆円)に達しております。また、債券運用残高は、1,610億ユーロ^{*}(約22兆円)となっております。

^{*} 2004年12月末現在

投資対象

①投資対象資産の種類

この信託において投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

1. 次に掲げる特定資産(「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ)
 - イ. 有価証券
 - ロ. 金銭債権
 - ハ. 約束手形(証券取引法第2条第1項第8号に掲げるもの(CP)を除きます)
 - ニ. 金銭を信託する信託の受益権
2. 次に掲げる特定資産以外の資産
為替手形

②有価証券の指図範囲

委託会社は、信託金を、主として「ドイチェ・米国投資適格社債ファンド(適格機関投資家専用)」の投資信託証券と「CAF ユーロ・ボンド・ファンド」及び「CAF ユーロ・コーポレート・ボンド・ファンド」の投資信託証券の毎月分配クラスその他、次の有価証券(本邦通貨表示のものに限ります)に投資することを指図します。

1. コマーシャル・ペーパー及び短期社債等
2. 外国または外国法人の発行する証券または証書で、前記1. の証券の性質を有するもの

③金融商品の指図範囲

委託会社は、信託金を、前記②に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品により運用することを指図することができます。

1. 預金
2. 指定金銭信託
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形

④金融商品による運用の特例

前記②にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金を、前記③の1. から4. までに掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

分配方針

①収益分配方針

ファンドは、毎決算時(毎月12日。休日の場合は翌営業日とします)に、原則として次の方針により分配を行います。

1) 分配対象収益の範囲

分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当収入と売買益(評価益を含みます)等の全額とします。

2) 分配対象収益についての分配方針

分配金額は、委託会社が基準価額水準及び市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益額が少額の場合には分配を行わないこともあります。

3) 留保額の運用方針

留保額の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

②収益の分配

1) 信託財産から生じる毎計算期末における利益は、次の方法により処理します。

- (i) 配当金、利子及びこれらに類する収益から支払利息を控除した額(以下「配当等収益」といいます)は、諸経費、信託報酬及び当該信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を控除した後、その残金を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配金に充てるため、その一部を分配準備積立金として積立てることができます。
 - (ii) 売買損益に評価損益を加減した利益金額(以下「売買益」といいます)は、諸経費、信託報酬及び当該信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を控除し、繰越欠損金のあるときは、その金額を売買益をもって補てんした後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配に充てるため、分配準備積立金として積立てることができます。
 - (iii) 収益分配金にかかる収益調整金は、原則として、各受益者毎の信託時の受益証券の価額等に応じて計算されるものとします。
 - (iv) 収益調整金は、所得税法施行令第27条の規定によるもの(追加型証券投資信託の収益分配のうち非課税とされるもの)とし、各受益者毎の信託時の受益証券の価額と元本との差額をいい、原則として、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとします。また、各受益者毎の信託時の受益証券の価額等とは、原則として、各受益者毎の個別元本をいい、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとします。
- 2) 毎計算期末において、信託財産につき生じた損失は、次期に繰越します。

③収益分配金の支払

- (i) 収益分配金は、毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日(原則として決算日から起算して5営業日目)から収益分配金交付票と引換に支払います。
- (ii) 前記(i)の規定にかかわらず、別に定める契約(自動けいぞく投資契約)に基づいて収益分配金を再投資する受益者に対しては、委託会社は、原則として毎計算期間終了日に収益分配金を販売会社に交付します。この場合、販売会社は、受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資に係る受益証券を売付けます。
- (iii) 前記(i)に規定する収益分配金の支払は、販売会社の営業所等において行うものとします。
- (iv) 受益者が、収益分配金について前記(i)に規定する支払開始日から5年間その支払を請求しないときは、その権利を失い、委託会社が受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

投資制限

1. 当ファンドの信託約款で定める投資制限

- ①投資信託証券以外への投資は、信託約款に定める範囲内で行います。
- ②株式への投資制限
株式(新株引受権証券及び新株予約権証券を含みます)への直接投資は行いません。
- ③外貨建資産への投資制限
外貨建資産(外貨建資産を組入可能な投資信託証券を含みます)の投資割合には制限を設けません。
- ④同一銘柄の投資信託への投資制限
原則として実質的に複数のファンドに投資し、かつ1ファンドへの投資割合は純資産総額の50%を超えないものとします。ただし、約款若しくは定款等において、ファンド・オブ・ファンズにのみ取得される(販売会社及び運用会社が一時取得する場合を含みます)ファンドであることが記載されているファンドを組入れる場合には50%以上の取得ができるものとします。
- ⑤特別の場合の外貨建有価証券への投資制限
外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。
- ⑥外国為替予約取引の指図及び範囲
委託会社は、信託財産に属する外貨建資産について、当該外貨建資産の為替ヘッジのため、外国為替の売買の予約を指図することができます。
- ⑦資金の借入れの制限
 - (i)委託会社は、信託財産の効率的な運用並びに運用の安定性に資するため、途中解約に伴う支払資金の手当て(途中解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます)を目的として、資金借入れ(コール市場を通じる場合を含みます)の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
 - (ii)途中解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する金融商品の解約代金入金日までの間若しくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券の売却代金、金融商品の解約代金及び有価証券等の償還金の合計額を限度とします。
 - (iii)借入金の利息は信託財産中より支弁します。
- ⑧受託者による資金の立替え
 - (i)信託財産に属する有価証券について、借替がある場合で、委託会社の申出があるときは、受託会社は資金の立替えをすることができます。
 - (ii)信託財産に属する有価証券にかかる償還金等、有価証券等にかかる利子等、投資信託証券の配当金及びその他の未収入金で、信託終了日までにその金額を見積りうるものがあるときは、受託会社がこれを立替えて信託財産に繰入れることができます。
 - (iii)立替金の決済及び利息については、受託会社と委託会社との協議によりそのつど別にこれを定めます。

2. 法令により禁止または制限される取引等

投資信託及び投資法人に関する法律（以下「投信法」といいます）等により、後記に掲げる取引は、禁止または制限されます。

1) 同一法人の発行する株式の投資制限

投資信託委託業者は、同一法人の発行する株式について、委託会社が運用を行う全ての委託者指図型投資信託につき、信託財産として有する当該株式に係る議決権の総数が、当該株式に係る議決権の総数の 50%を超えることとなる場合において、信託財産をもって当該株式を取得することを受託会社に指図することはできません。

2) 先物取引等の評価損の制限

委託会社は、信託財産の純資産の 100 分の 50 を乗じた額が、当該信託財産に係る次の(a)、(b)に掲げる額（これらの取引のうち、当該取引が評価損を生じたのと同じ事由により評価益を生じた取引がある場合には、当該評価益の合計額を控除した額とします）並びに(c)及び(d)に掲げる額の合計額を下回るものとなるものにかかわらず、当該信託財産に係る有価証券先物取引等を行うことまたは継続することを受託会社に指図することはできません。

- (a) 当該信託財産に係る先物取引等評価損（有価証券オプション取引等及び有価証券店頭オプション取引等の売付約定に係るものを除きます）。
- (b) 当該信託財産に係る有価証券オプション取引等及び有価証券店頭オプション取引等のうち売付約定に係るものにおける原証券等（オプションの行使の対象となる一または複数の有価証券若しくは有価証券指数またはこれと類似のものをいいます）の時価とその行使価格との差額であって当該オプションの行使に伴い発生すると見込まれる損失の額から当該オプションに係る帳簿価額を控除した金額であって評価損となるもの。
- (c) 当該信託財産をもって取得し現在保有している新株予約権を表示する証券または証書に係る時価とその帳簿価額との差額であって評価損となるもの。
- (d) 当該信託財産をもって取得し現在保有しているオプションを表示する証券または証書に係る時価とその帳簿価額との差額であって評価損となるもの。

ファンドの主なリスク

当ファンドは、値動きのある有価証券に投資します(外国証券には為替変動リスクもあります)ので、基準価額は変動します。従って、当ファンドは、金融機関の預金と異なり元金が保証されているものではありません。また、当ファンドは、預金保険の対象ではなく、信託財産に生じた利益及び損失は、全て受益者に帰属することとなります。以下は、当ファンドに関して考えられる主なリスクです。

① 一般的経済状況

市場及び投資資産は、金利、政府による政策や貿易、外国為替レートといったマクロ経済的な要因に影響を受ける可能性があります。かかる要因により予期せぬ変動が起こり、投資資産の価格自体だけでなくボラティリティにも影響が及ぶ可能性があります。

② 市場リスク

上場、非上場にかかわらず、有価証券への投資にはリスクが伴います。有価証券の価格は経済状況や金利、証券の市場感応度の変化等により変動します。従って、ファンドの基準価額は、現在のファンドが置かれている投資環境により変動します。債券及びその他確定利付証券への投資もリスクを伴います。債券価格は金利によって変動し、金利が上昇すると債券価格は下がります。債券及びその他確定利付証券の市場価格は、発行体の債務不履行や流動性リスクなどの信用リスクの影響も受けます。

③ 市場参加リスク

当ファンドが(直接若しくは間接に)取引または投資を行う相手方であり、または当ファンドの信託財産が保管を目的に委託されるブローカー会社及び銀行を含む機関は、営業能力または当ファンドの資本ポジションを損なうような財政困難に直面することがあります。

④ 相手方当事者の債務不履行

当ファンドが取引を行う一定の組織化された市場が、主たる市場になります。かかる市場において、当ファンドは相手方当事者の債務不履行による影響を受けます。

⑤ 破産または債務不履行

- 相手方当事者が破産した場合、本来ならば相当の利益を得ていたと思われる場合でも、当ファンドの資金を回収することは不可能となり、受益者は多大な損失を被ることがあります。
- 債券への投資は、該当する発行体の財政状況、一般的な経済状況、若しくはその両方、あるいは金利の予期せぬ上昇により、特に超過債務の発行体が利払・元本償還能力を失うおそれのある場合、不利な変動をすることがあります。該当する発行体の利払・元本償還能力は(発行体)企業の特定の事業展開や、特定の経営プランの実現不能若しくは追加的資金調達が不可能な場合にも、不利な変動をするおそれがあります。また、景気の低迷や金利上昇は、債務証券の発行体の債務不履行の可能性を増大させるおそれがあります。
- 一般に、債券の元金や利息の支払が滞ったり、支払われなくなるリスクのことを信用リスクといいます。ファンドのポートフォリオの平均格付は、原則としてシングル A 格【A-格(スタンダード&プアーズ社)/A3 格(ムーディーズ社)】以上とすることを目指します。また、当ファンドが組入れる投資信託証券が投資対象とする個別債券の格付は、原則として、投資適格債(トリプル B 格(BBB-/Baa3)以上)とし、信用リスクの低減を図ります。

⑥ ビジネスリスク

一般に、投資した企業の経営等に重大な危険が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。

⑦ 流動性リスク

一般に、市場規模や取引量が小さい組入銘柄を売却する際に市場実勢から期待される価格で売買できない場合、不測の損失を被るリスクがあります。

⑧ 政治的リスク

ある国の政治状況が、ファンドが投資する国の証券価値に影響をもたらすことがあり、結果としてファンドの基準価額にも影響をもたらされることがあります。

⑨ 金利変動リスク

金利変動リスクとは、金利変動により債券価格が変動するリスクをいいます。一般に金利が上昇した場合、債券価格は下落し、ファンドの基準価額が下落する要因になります。また、償還までの期間が長ければ長いほど、その債券価格の下落幅は大きくなります。逆に、金利が低下すると、債券価格は上昇します。そして、償還までの期間が長ければ長いほど、その債券価格の上昇幅は大きくなります。

⑩ 為替変動リスク

- ・ 外貨建の有価証券に投資した場合は、為替変動によって重大な損失が生じるリスクがあります。
- ・ 当ファンドは、円建で基準価額が表示される国内投信ですが、投資対象とされるファンドの投資有価証券はいずれも外貨建であり、為替ヘッジは行いません。従って、ファンドの基準価額は、円安になると上昇する傾向が、反対に円高になると下落する傾向があります。
- ・ 外貨建有価証券は、その国の政治経済情勢、通貨規制、資本規制等の要因による影響を受けて、価格が大きく変動する可能性もあります。

⑪ 規制の変更

- ・ 法令、税制及び会計基準等は今後変更される可能性もあります。
- ・ 将来規制が変更された場合、当ファンドは重大な不利益を被る可能性があります。

⑫ その他

- ・ 前記以外にも、信託報酬、監査費用の負担及びこれらに対する消費税等の負担による負の影響が存在します。
- ・ 投資環境の変化などにより、継続募集期間の更新を行わないことや、募集を停止することがあります。この場合は、新たに当ファンドを購入できなくなります。
- ・ 証券市場及び外国為替市場は、世界的な経済事情の急変またはその国における天災地変、政変、経済事情の変化若しくは政策の変更等の諸事情により閉鎖されることがあります。これにより当ファンドの運用が影響を被って基準価額の下落につながり、その結果、投資元本を下回る可能性があります。

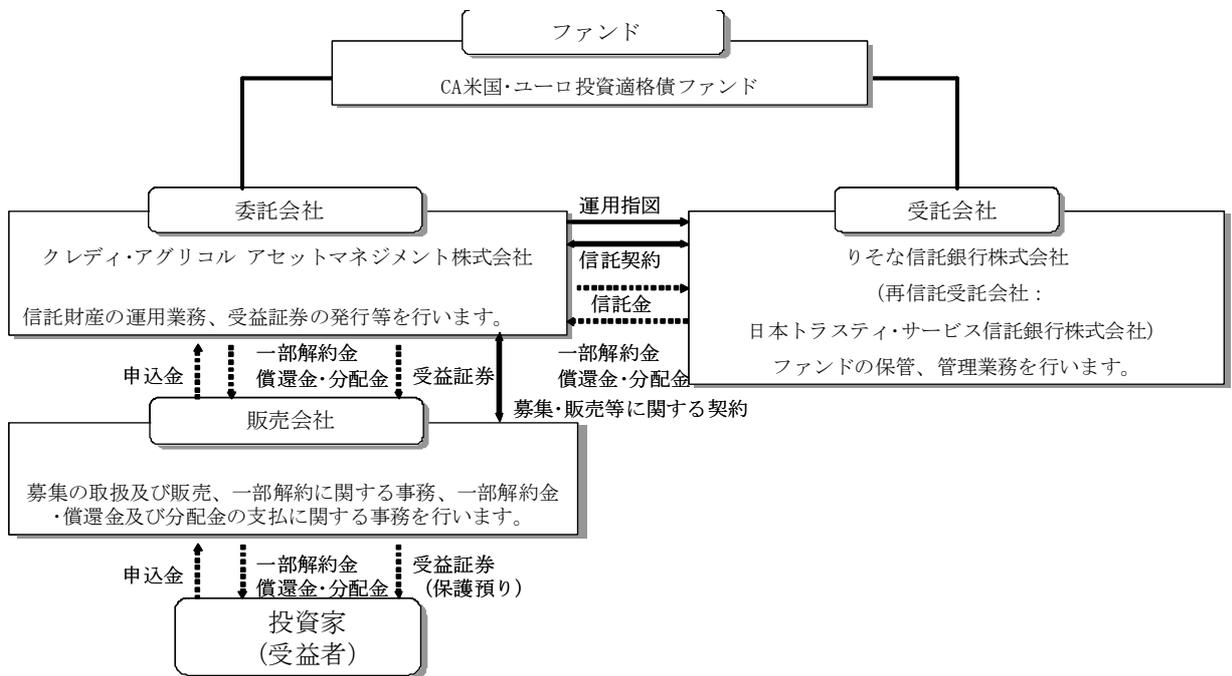
その他の留意点

【投資信託についての一般的な留意事項】

投資信託は、その商品の性格から次の特徴をご理解のうえご購入くださいますようお願い申し上げます。

- ・ 投資信託は預金ではありません。
- ・ 投資信託は金融債ではありません。
- ・ 投資信託は預金保険の対象となりません。
- ・ 投資信託は値動きのある証券に投資するため、投資元本及び分配金が保証された商品ではありません。
- ・ 投資信託の設定・運用は投資信託委託会社が行います(証券会社・銀行は販売の窓口となります)。
- ・ 投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客さまが負うこととなります。
- ・ 登録金融機関を通じてご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。

ファンドのしくみ



委託会社の概要

名称 : クレディ・アグリコル アセットマネジメント株式会社
 代表者の役職氏名 : 代表取締役 青野 晴延
 本店の所在の場所 : 東京都千代田区内幸町一丁目2番2号

(i) 委託会社の資本金

3 億円 (有価証券届出書提出日現在)

(ii) 委託会社の沿革

昭和 61 年 7 月 1 日 「インドスエズ・アセット・マネージメント・ジャパン・リミテッド」 設立
 昭和 63 年 6 月 8 日 証券投資顧問業の登録
 平成元年 1 月 31 日 投資一任契約にかかる業務の認可
 平成 2 年 7 月 20 日 「インドスエズ・ガートモア・アセット・マネージメント株式会社」 に商号変更
 平成 6 年 9 月 20 日 「インドスエズ・ガートモア投資顧問株式会社」 に商号変更
 平成 7 年 10 月 2 日 「インドスエズ投資顧問株式会社」 に商号変更
 平成 9 年 9 月 1 日 「インドカム投資顧問株式会社」 に商号変更
 平成 10 年 9 月 30 日 「インドカム・アセット・マネージメント投信株式会社」 に商号変更
 平成 10 年 11 月 24 日 証券投資信託委託業の免許取得 (法律改正に伴い、現在は認可取得)
 平成 13 年 4 月 25 日 「クレディ・アグリコル アセットマネジメント株式会社」 に商号変更

(iii) 大株主の状況

(有価証券届出書提出日現在)

株 主 名	住 所	所有株数	所有比率
クレディ・アグリコル アセッ トマネージメント・エス・エー	フランス共和国 パリ市 パスツール大 通り 90番地 75015	23,200株	100%

(iv) 現況

《クレディ・アグリコル・グループ概要》

クレディ・アグリコル・グループは、1894 年に設立された、フランス最大級のリテールバンク、クレディ・アグリコル エス・エーを中核とする金融グループです。

クレディ・アグリコル エス・エーは、欧州大陸第1位のユニバーサルバンク^{※1}(地銀43行、従業員数約62,000人超、9,060支店^{※2})であり、フランス国内で上位の格付を取得しております(スタンダード&プアーズ社: AA-格、ムーディーズ社: Aa2格、フィッチ社: AA格^{※3})。

クレディ・アグリコル・グループの業務内容は、商業銀行部門、地方銀行部門、資産運用部門、生命保険部門、損害保険部門、コンサルタント部門等と広範囲にわたっております。

また、2003年6月にフランス大手銀行クレディ・リヨネを買収したことで、ユーロ圏最大級の金融グループとなっております。

※1 自己資本(第一分類)は634.22億米ドル(出所: The Banker, July 2005)に基づきます。

※2 2004年12月末現在

※3 2005年3月末現在

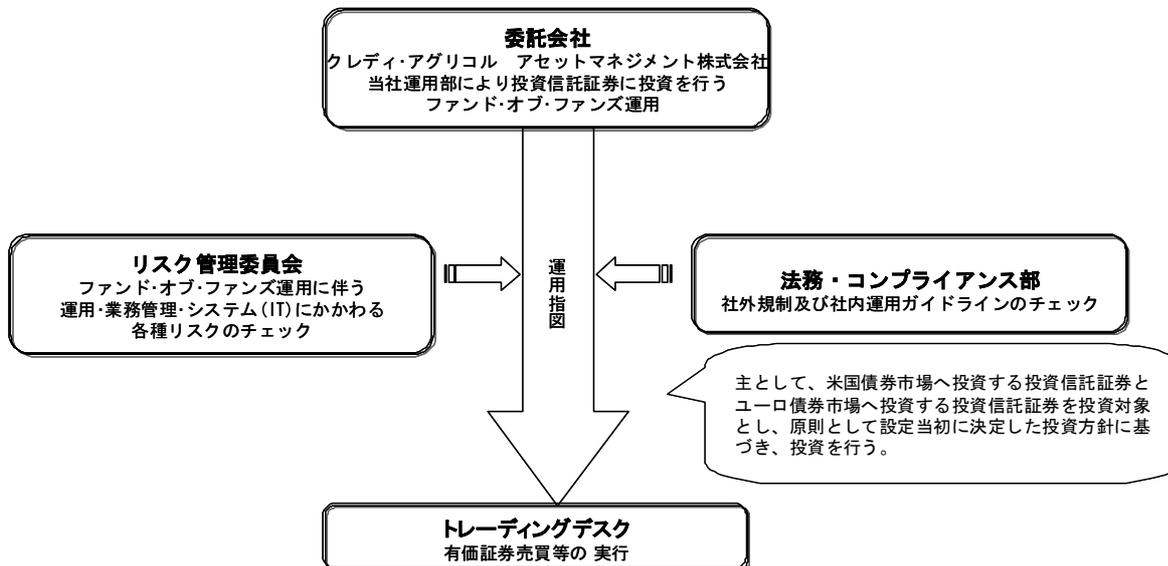
《クレディ・アグリコル アセットマネジメント株式会社概要》

クレディ・アグリコル アセットマネジメント株式会社は、グループの資産運用部門であるクレディ・アグリコル アセットマネジメント・エス・エー(フランス)の100%子会社で、日本における資産運用ビジネスの拠点として、1986年以来、日本のお客様に資産運用サービスを提供しております。

現在、クレディ・アグリコル アセットマネジメント株式会社は、日本株式の運用拠点としてパリ本社運用チームと連携した日本株式アクティブ運用を行っており、元本確保型ストラクチャード商品を中心とする投資信託を多数設定、欧州株式、欧州債券、オルタナティブをはじめとする機関投資家向商品など、幅広い商品提供を行っております。

運用体制及びリスク管理体制

当ファンドの運用体制及び運用プロセスは以下の通りです。



ファンドの運用体制等は有価証券届出書提出日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

【リスク管理体制】

クレディ・アグリコル アセットマネジメント株式会社ではリスク管理を徹底すべく、以下のように2段階でリスクのモニター・管理を行っております。

▶ 運用上のリスク管理

当ファンドの運用を担当する運用部は、企画本部からのフィードバックをもとにリスク・パフォーマンス状況の検討、組入れ投資信託証券のリスク試算等を行い、リスク管理が運用プロセスの重要な一部であるとの認識に立って、運用の決定を行います。また法務・コンプライアンス部とともに、ポートフォリオ対規約規制、顧客の指定規約や社内規定の遵守を徹底しております。

▶ 業務上のリスク管理

法務・コンプライアンス部では、現在以下の事項を実施しています。

- (i) ファンド毎に、目論見書(信託約款)上のファンド個別の投資制限や投信法及び協会ルール等に基づくチェック項目がシステムにプログラムされ、日次ベースでコンプライアンス担当者が運用状況を確認します。
- (ii) 投資制限等に超過が見つかった場合は、運用担当者に連絡し事情を確認。市場変動等外的要因による“一時的な超過”とみなせる場合も含め、適切にポジションの改善が図られるまで日次で確認及び運用担当者との連絡を続けます。
- (iii) 運用状況の確認の結果は、毎月開かれるコンプライアンス委員会（メンバーは会長、社長、法務・コンプライアンス部長及び同スタッフ、業務管理本部長、運用部長）に報告されます。同委員会においては、決済に関わる問題、その他受託者責任上の諸問題が発生した場合の問題処理手続や再発防止策についても報告、議論がなされ、リスク管理について必要な方策を講じています。
- (iv) 四半期毎にリスク管理委員会（メンバーは全ての常勤取締役、法務・コンプライアンス部長、法務・コンプライアンス部リスク管理担当者及び運用部で構成）が開かれ、運用・業務管理・システム(IT)に関わるリスクの週次・月次モニターの結果等を通じてリスク管理体制全般の構築が行われています。

買付（販売）の申込手続

【お申込みについて】

原則としていつでもお申込みできます。

ただし、ファンドの休業日 にあたる場合はお申込みできません。

日本の証券取引所の休業日、パリ、ルクセンブルグの銀行休業日及びニューヨーク証券取引所の休業日あるいは米国債券市場協会が定める休業日のいずれかに該当する場合はファンドの休業日となります。

募集期間	平成 18 年 2 月 11 日(土)から 平成 19 年 2 月 9 日(金)まで
------	---

募集期間は、前記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。

【お申込み単位】

1万円以上1円単位または1万口以上1万口単位

お申込には「自動けいぞく投資コース」と、「一般コース」の2つがあります。ただし、販売会社によってはどちらか一方のみの取扱となる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

*「自動けいぞく投資コース」は、税引後の分配金を無手数料で自動的に再投資するコースです。ただし、販売会社によっては、自動的に分配金の再投資を行わず、収益の分配が行われたときに分配金を受取ることを選択することもできます。

*「一般コース」は、収益分配時に分配金を受取るコースです。

前記コースについて、途中で変更することはできません(ただし、全保有受益証券売却後に新たにご購入される場合を除きます)。

販売会社によっては、「自動けいぞく投資コース」においても分配金を定期的を受取るための定期引出契約(販売会社により名称が異なる場合があります。以下同じ)を締結することができる場合があります。また、販売会社によっては、毎月の予め指定する日に予め指定した金額をもって、受益証券の取得申込を行う「定時定額購入取引(積立)」(販売会社により名称が異なる場合があります。以下同じ)を取扱う場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

【お申込み価額】

お申込み日の翌営業日の基準価額

換金（解約）の申込手続

【途中解約について】

原則としていつでも解約できます。
ただし、ファンドの休業日にあたる場合は、お申込みできません。

【解約単位】

1口単位または1万口単位

【解約価額】

解約請求受付日の翌営業日の基準価額

【基準価額、解約価額及び販売会社について委託会社の照会先】

クレディ・アグリコル アセットマネジメント株式会社

お客様サポートライン

電話番号 : 0120-202-900（フリーダイヤル）

受付時間 : 月曜日～金曜日（祝休日を除く）の午前9時～午後5時
（半日営業日は午前9時～午前11時半）

インターネットホームページ : <http://www.jp.ca-assetmanagement.com>

【受益証券の買取】

販売会社は、受益者の請求があるときは、その受益証券を買取ります。
買取のお取扱いについては販売会社によって異なりますので、お申込みの販売会社にお問い合せください。

お客様に直接ご負担いただく費用・税金

時期	項目	費用・税金
申込時	申込手数料 ¹	2.1%（税抜2.0%）を上限に販売会社が定めるものとします。
途中解約時	所得税及び地方税	解約価額 ² の個別元本超過額 ³ に対して課税されます。
収益分配時	所得税及び地方税	普通分配金に対して課税されます。
償還時	所得税及び地方税	償還時の個別元本超過額 ³ に対して課税されます。
買取の場合 ⁴	-	原則として、買取時に源泉徴収は行われず、譲渡益に係る税金は確定申告によりお支払いいただくこととなります。

¹ 詳しくは販売会社にお問い合わせください。また、委託会社のインターネットホームページ(<http://www.jp.ca-assetmanagement.com>)でも販売会社のお申込手数料等がご覧いただけます。

² 途中解約時の解約価額は、解約請求受付日の翌営業日の基準価額とします。

³ お客さまの個別元本(受益者毎の信託時の受益証券の価額等(申込手数料及び当該申込手数料にかかる消費税相当額は含まれません)をいいます)を上回る金額に対して課税されます。

⁴ 買取のお取扱いについては販売会社によって異なりますので、お申込みの販売会社にお問い合わせください。

当ファンドの収益分配金は、配当控除・益金不算入制度の適用対象外となります。
当ファンドの会計上・税務上のお取扱いについては、あらかじめ会計士・税理士にご確認ください。

ファンドで間接的にご負担いただく費用

時期	信託報酬		
毎日	信託報酬の総額	信託財産の純資産総額に対し、年率 0.8715%（税抜 0.83%）以内（現状 0.714%（税抜 0.68%））を乗じて得た金額	
	信託報酬の配分	委託会社	0.21%（税抜0.20%）以内 （現状0.1575%（税抜0.15%））
		販売会社	0.63%（税抜0.60%）以内 （現状0.525%（税抜0.50%））
		受託会社	0.0315%（税抜0.03%）

信託報酬は、毎計算期間末、または信託終了のとき信託財産中から支弁します。
また、組入投資信託証券とその信託報酬は後記の通りです。

「ドイチェ・米国投資適格社債ファンド(適格機関投資家専用)」：年率 0.5775% (税抜 0.55%)

「CAF ユーロ・ボンド・ファンド」：税抜年率 0.5%以内(毎月分配クラス)

「CAF ユーロ・コーポレート・ボンド・ファンド」：税抜年率 0.5%以内(毎月分配クラス)

* 日本国外においてかかる費用 (組入投資信託証券の信託報酬) に関しては、消費税が課されません。

* 委託会社は受託会社と同意の上、前記に規定する率以内で信託報酬率を変更することができます。

(注)前記のほか、資金の借入れにかかる借入金の利息、信託事務等の諸費用、ファンドの組入有価証券売買の際に発生する売買委託手数料等をご負担いただきます。

税金の取扱

課税については、次のような取扱となります。なお、税法が変更・改正された場合は、以下の内容が変更になることがあります。

① 個別元本について

- (i) 追加型投資信託について、受益者毎の信託時の受益証券の価額等(申込手数料及び当該申込手数料にかかる消費税等相当額は含まれません)が当該受益者の元本(個別元本)にあたります。
- (ii) 受益者が同一ファンドの受益証券を複数回取得した場合、原則として、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。
- (iii) 保護預りでない受益証券及び記名式受益証券については各受益証券毎に、同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合については各販売会社毎に、個別元本の算出が行われます。また、同一販売会社であっても複数口座で同一ファンドを取得する場合は当該口座毎に、「一般コース」と「自動けいぞく投資コース」の両コースで取得する場合はコース別に、個別元本の算出が行われる場合があります。
- (iv) 受益者が特別分配金を受取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該特別分配金を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります(「特別分配金」については、後記「③収益分配金の課税について」を参照)。

② 途中解約時及び償還時の課税について

途中解約時及び償還時の個別元本超過額が課税対象となります。

③ 収益分配金の課税について

追加型投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「特別分配金」(受益者毎の元本一部払戻しに相当する部分)の区分があります。

受益者が収益分配金を受取る際、次の通りとなります。

- (i) 当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合又は当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となります。
- (ii) 当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が特別分配金となり、当該収益分配金から当該特別分配金を控除した額が普通分配金となります。なお、受益者が特別分配金を受取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該特別分配金を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

④ 個人、法人別の課税の取扱いについて

(1) 個人の受益者に対する課税

時期	適用期間	税率	方法
途中解約時 償還時	平成20年3月31日まで	10% (所得税(7%)及び地方税(3%))	途中解約時及び償還時の個別元本超過額に対して源泉徴収(申告不要 [*])されます。
	平成20年4月1日以降	20% (所得税(15%)及び地方税(5%))	
収益分配時	平成20年3月31日まで	10% (所得税(7%)及び地方税(3%))	収益分配金のうち、「普通分配金」に対して源泉徴収(申告不要 [*])されます。「特別分配金」には課税されません。
	平成20年4月1日以降	20% (所得税(15%)及び地方税(5%))	

^{*} 確定申告により総合課税の選択もできます。

(2) 法人の受益者に対する課税

時期	適用期間	税率	方法
途中解約時 償還時	平成20年3月31日まで	7% (所得税(7%))	途中解約時及び償還時の個別元本超過額に対して源泉徴収されます。地方税の源泉徴収はありません。
	平成20年4月1日以降	15% (所得税(15%))	
収益分配時	平成20年3月31日まで	7% (所得税(7%))	収益分配金のうち、「普通分配金」に対して源泉徴収されます。地方税の源泉徴収はありません。「特別分配金」には課税されません。
	平成20年4月1日以降	15% (所得税(15%))	

(3) 買取請求時の課税

原則として源泉徴収は行われず、確定申告により納税していただきます。

買取のお取扱いについては販売会社によって異なりますので、お申込みの販売会社にお問い合わせください。

当ファンドの収益分配金は、配当控除・益金不算入制度の適用対象外となります。

当ファンドの会計上・税務上の取扱いについては、あらかじめ会計士・税理士にご確認ください。

管理及び運営の概要

【資産の評価】

(i) 基準価額の算定

基準価額とは、信託財産に属する資産(受入担保金代用有価証券を除きます)を法令及び社団法人投資信託協会規則に従って時価又は一部償却原価法により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額(「純資産総額」といいます)を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。なお外貨建資産(外国通貨表示の有価証券(以下「外貨建有価証券」といいます)、預金その他の資産をいいます。以下同じ)の円換算については、原則として、日本における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算します。

予約為替の評価は、原則として、わが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。

(ii) 基準価額の算出頻度と公表

基準価額は、委託会社の営業日において日々算出され、委託会社及び販売会社に問い合わせることにより知ることができます。また、当日の基準価額は原則として、翌日の日本経済新聞、オープン基準価格「CAアセット」の欄に掲載されます。なお、基準価額は1万口単位で表示されたものが発表されます。ファンドの基準価額について委託会社の照会先は後記の通りです。

クレディ・アグリコル アセットマネジメント株式会社

お客様サポートライン

電話番号 : 0120-202-900 (フリーダイヤル)

受付時間 : 月曜日～金曜日(祝休日を除く)の午前9時～午後5時
(半日営業日は午前9時～午前11時半)

インターネットホームページ : <http://www.jp.ca-assetmanagement.com>

【保管】

販売会社は、受益証券を原則として保護預り契約に基づいて保管(保護預り)するものとします。

【信託期間】

信託期間は無期限とします。ただし、後記「【その他】(i)信託の終了」に該当する場合、信託は終了することがあります。

【計算期間】

(i) この信託の計算期間は、毎月13日から翌月12日までとすることを原則とします。ただし、第1計算期間は信託契約締結日から平成16年1月13日までとします。

(ii) 各計算期間終了日に該当する日(以下「該当日」といいます)が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日は、信託約款に定める信託期間の終了日とします。

【受益者の権利等】

受益者は主な権利として収益分配金に対する請求権、償還金に対する請求権及び途中解約(換金)請求権を有しています。

【その他】

(i) 信託の終了

- a. 委託会社は、次の場合、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます(以下「繰上償還」といいます)。この場合において、委託会社は、あらかじめ解約しようとする旨を監督官庁に届出ます。
 - i. 信託期間中において、信託契約の一部を解約することにより受益権の口数が 10 億口を下回った場合
 - ii. 信託期間中において、この信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき
 - iii. やむを得ない事情が発生したとき

委託会社は、前記に従い繰上償還させる場合、以下の手続により行います。

- 1) 委託会社は、あらかじめ解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面をこの信託契約にかかる知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託契約にかかるすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として公告を行いません。
 - 2) 前記の公告及び書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は 1 ヶ月を下らないものとします。
 - 3) 当該一定期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、信託契約の解約をしません。
 - 4) 委託会社は、この信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨及びその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として公告を行いません。
 - 5) 前記 2) から 4) までの規定は、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、前記 2) の一定の期間が 1 ヶ月を下らずにその公告及び書面の交付を行うことが困難な場合にも同様の取扱とします。
- b. 委託会社が、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたとき、その命令に従い、信託契約を解約し信託を終了させます。
 - c. 委託会社が監督官庁より認可の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したとき、委託会社は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。ただし、監督官庁がこの信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託業者に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、後記「(ii) 信託約款の変更」の c. の異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときに該当する場合を除き、当該投資信託委託業者と受託会社との間において、存続します。
 - d. 受託会社が委託会社の承諾を受けてその任務を辞任した場合において、委託会社が新受託会社を選任できないとき、委託会社はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

(ii) 信託約款の変更

- a. 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託約款を変更することができるものとし、あらかじめ変更しようとする旨及びその内容を監督官庁に届出ます。委託会社は、かかる変更事項のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ、変更しようとする旨及びその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託約款にかかる知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託約款にかかる全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として公告を行いません。
- b. 前記 a. の公告及び書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は 1 ヶ月を下らないものとします。
- c. 前記 b. の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、前記の信託約款の変更をしません。
- d. 委託会社は、当該信託約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨及びその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
- e. 委託会社は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、前記 a. から d. までの規定に従います。

(iii) 反対者の買取請求権

ファンドの信託契約の解約または信託約款の重要なものについて変更を行う場合において、一定の期間内に委託会社に対して異議を述べた受益者は、販売会社を通じて、受託会社に対し、自己の所有する受益証券を、信託財産をもって買取るべき旨を請求することができます。

(iv) 公告

委託会社が受益者に対してする公告は日本経済新聞に掲載します。

(v) 運用報告書の作成

委託会社は、5月と11月の計算期間の末日及び償還時に運用報告書を作成し、当該信託財産にかかる知られたる受益者に対して交付します。

(vi) 関係法人との契約の更改等に関する手続

販売会社との「受益証券の募集販売、買取及び解約の取扱並びに収益分配金及び償還金の支払等に関する契約」にかかる契約の有効期間は、契約締結の日から1年間とします。ただし、期間満了の3ヵ月前までに委託会社、販売会社いずれからも、別段の意思表示のないときは、自動的に1年間更新されるものとし、自動延長後の取扱についてもこれと同様とします。ただし、期間の途中においても必要がある時は、契約の一部を変更することができます。

(vii) ファンドが使用する愛称について

当ファンドは愛称として、「りそな ペア・インカム」もしくは「デュアル・インカム」という名称を用いることがあり、販売会社によって異なる愛称を用いることがあります。

内国投資信託受益証券事務の概要

(1) 受益証券の名義書換等

投資家が、委託会社の定める手続によって、ファンドの受益証券を取得した販売会社に請求したときは、無記名式受益証券と引換に記名式の受益証券に、または記名式受益証券と引換に無記名式に変更することができます。また、記名式受益証券を取得した受益者は、取得した販売会社に申出ることにより、名義書換を請求することができます。ただし、名義書換手続は、ファンドの毎計算期間の末日の翌日から15日間停止します。記名式受益証券から無記名式受益証券への変更及び無記名式受益証券から記名式受益証券への変更並びに名義書換にかかる手数料は徴収しません。

(2) 受益者名簿

作成いたしません。

(3) 受益者等に対する特典

該当するものではありません。

(4) 受益証券の譲渡制限の内容

受益証券の譲渡制限は設けておりません。ただし、記名式の受益証券の譲渡は、委託会社の定める手続による名義書換によらなければ、委託会社及び受託会社に対抗することはできません。

(5) 受益証券の再発行

- ① 無記名式受益証券を喪失した受益者が、当該受益証券の公示催告による除権判決の謄本を添え、委託会社の定める手続によって再交付を請求したときは、委託会社は、無記名式受益証券を再交付します。
- ② 記名式受益証券を喪失した受益者が、委託会社の定める手続によって再交付を請求したときには、委託会社は、記名式受益証券を再交付します。
- ③ 委託会社は、受益証券を毀損または汚損した受益者が、当該受益証券を添え、委託会社の定める手続によって再交付を請求したときは、受益証券を再交付します。ただし、真偽を鑑別しがたいときは、受益証券を喪失した場合の前記①及び②の規定を準用します。
- ④ 委託会社は、受益証券を再交付するときは、受益者に対して実費を請求することができるものとします。

その他ファンドの情報

- | | |
|--------------------|--|
| (1) 内国投資信託受益証券の形態等 | 追加型証券投資信託受益証券(以下「受益証券」といいます)。原則無記名式ですが、記名式への変更も可能です。なお、当初元本は1口当たり1円です。格付は取得していません。 |
| (2) 発行価額の総額 | 5,000億円を上限とします(なお、前記金額には、申込手数料及び申込手数料にかかる消費税及び地方消費税(以下「消費税等相当額」といいます)は含まれていません)。 |
| (3) 振替機関に関する事項 | 該当事項はありません。 |
| (4) 日本以外の地域における発行 | 該当事項はありません。 |
| (5) 有価証券届出書の写しの縦覧 | 該当事項はありません。 |
| (6) ファンドの愛称に関する事項 | 当ファンドは愛称として、「りそな ペア・インカム」もしくは「デュアル・インカム」という名称を用いることがあり、販売会社によって異なる愛称を用いることがあります。 |

投資信託説明書(請求目論見書)の記載項目

有価証券届出書「第三部 ファンドの詳細情報」の記載項目は、後記の通りです。

第1 ファンドの沿革

第2 手続等

- 1 申込(販売)手続等
- 2 換金(解約)手続等

第3 管理及び運営

- 1 資産管理等の概要
 - (1) 資産の評価
 - (2) 保管
 - (3) 信託期間
 - (4) 計算期間
 - (5) その他
- 2 受益者の権利等

第4 ファンドの経理状況

- 1 財務諸表
- 2 ファンドの現況

第5 設定及び解約の実績

ファンドの運用状況

(1) 投資状況

信託財産の構成（平成17年12月30日現在）

資産の種類	国・地域	評価額（千円）	投資比率（%）
投資証券	ルクセンブルグ	43,761,005	49.22
投資信託受益証券	日本	43,653,526	49.09
預金、その他資産（負債控除後）		1,499,588	1.69
合計（純資産総額）		88,914,120	100.00

(注1) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の評価額の比率をいいます。

(注2) 金額の単位未満は切捨てです。

(注3) 平成17年12月30日における外貨建純資産(43,574,402千円)の純資産総額(88,914,120千円)に対する比率は49.01%です。

(注4) 外貨建資産は、計算日の各外貨建資産評価額を当日のわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、平成17年12月30日における邦貨換算レートは1ユーロ=139.83円です。

(2) 投資資産

①投資有価証券の主要銘柄

平成17年12月30日現在

国 / 地域	種類	銘柄名	数量（口）	帳簿価額 単価 （円）	帳簿価額金額 （円）	評価額 単価 （円）	評価額金額 （円）	投資 比率 （%）
日本	投資信託 受益証券	トイチェ・米国投資適格 社債ファンド	42,978,760,307	1.0296	44,254,283,955	1.0157	43,653,526,843	49.09
ルクセンブルグ	投資証券	CAF ユーロ・コーポ レート・ボンド・ ファンド (I2)	2,347,050	14,900.29	34,971,734,319	14,928.25	35,037,351,040	39.41
ルクセンブルグ	投資証券	CAF ユーロ・ボン ド・ファンド (I2)	623,751	13,921.64	8,683,641,127	13,985.79	8,723,654,615	9.81

(注1) 投資比率は、純資産総額に対する各銘柄の評価額の比率です。

種類別組入比率

平成17年12月30日現在

	純資産総額に対する比率（%）
投資証券	49.22
投資信託受益証券	49.09

②投資不動産物件

該当事項ありません。

③その他投資資産の主要なもの
為替予約取引

平成17年12月30日現在

取引種別	通貨	数量	帳簿価額 (円)	評価額 (円)	投資比率 (%)
買建	ユーロ	1,334,500.00	186,364,462	186,523,065	0.20

(注1) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

(注2) 為替予約取引の時価については、原則としてわが国の対顧客先物売買相場の仲値で評価しています。

(3)運用実績

①純資産の推移

平成17年12月末日及び同日前1年以内における各月末ならびに下記特定期間末の純資産の推移は次の通りです。

	純資産額 (円) 分配落	純資産額 (円) 分配付	1万口当たりの 純資産額 (円) 分配落	1万口当たりの 純資産額 (円) 分配付
第1特定期間末 (平成16年5月12日)	12,174,568,901	12,226,562,597	10,069	10,112
第2特定期間末 (平成16年11月12日)	34,573,452,533	34,721,245,768	10,059	10,102
第3特定期間末 (平成17年5月12日)	59,811,457,795	60,071,978,825	9,872	9,915
第4特定期間末 (平成17年11月14日)	87,638,913,139	88,007,386,169	10,227	10,270
平成16年12月末日	41,291,905,135	—	10,114	—
平成17年1月末日	43,934,447,352	—	9,907	—
平成17年2月末日	47,800,898,273	—	10,043	—
平成17年3月末日	52,543,918,427	—	10,014	—
平成17年4月末日	58,229,910,704	—	9,990	—
平成17年5月末日	63,410,860,519	—	9,995	—
平成17年6月末日	69,097,688,188	—	10,117	—
平成17年7月末日	73,623,260,044	—	10,233	—
平成17年8月末日	78,491,027,479	—	10,190	—
平成17年9月末日	83,666,220,696	—	10,181	—
平成17年10月末日	87,282,267,191	—	10,234	—
平成17年11月末日	89,855,742,626	—	10,436	—
平成17年12月末日	88,914,120,945	—	10,342	—

②分配の推移

	1口当たりの分配金
第1特定期間	(0.0215 円)
第1計算期間 (自 平成15年11月14日) (至 平成16年1月13日)	0.0043 円
第2計算期間 (自 平成16年1月14日) (至 平成16年2月12日)	0.0043 円
第3計算期間 (自 平成16年2月13日) (至 平成16年3月12日)	0.0043 円
第4計算期間 (自 平成16年3月13日) (至 平成16年4月12日)	0.0043 円
第5計算期間 (自 平成16年4月13日) (至 平成16年5月12日)	0.0043 円
第2特定期間	(0.0258 円)
第6計算期間 (自 平成16年5月13日) (至 平成16年6月14日)	0.0043 円
第7計算期間 (自 平成16年6月15日) (至 平成16年7月12日)	0.0043 円
第8計算期間 (自 平成16年7月13日) (至 平成16年8月12日)	0.0043 円
第9計算期間 (自 平成16年8月13日) (至 平成16年9月13日)	0.0043 円
第10計算期間 (自 平成16年9月14日) (至 平成16年10月12日)	0.0043 円
第11計算期間 (自 平成16年10月13日) (至 平成16年11月12日)	0.0043 円
第3特定期間	(0.0258 円)
第12計算期間 (自 平成16年11月13日) (至 平成16年12月13日)	0.0043 円
第13計算期間 (自 平成16年12月14日) (至 平成17年1月12日)	0.0043 円
第14計算期間 (自 平成17年1月13日) (至 平成17年2月14日)	0.0043 円
第15計算期間 (自 平成17年2月15日) (至 平成17年3月14日)	0.0043 円
第16計算期間 (自 平成17年3月15日) (至 平成17年4月12日)	0.0043 円
第17計算期間 (自 平成17年4月13日) (至 平成17年5月12日)	0.0043 円
第4特定期間	(0.0258 円)
第18計算期間 (自 平成17年5月13日) (至 平成17年6月13日)	0.0043 円
第19計算期間 (自 平成17年6月14日) (至 平成17年7月12日)	0.0043 円

ファンドの運用状況

第20計算期間 (自 平成17年7月13日) (至 平成17年8月12日)	0.0043 円
第21計算期間 (自 平成17年8月13日) (至 平成17年9月12日)	0.0043 円
第22計算期間 (自 平成17年 9月13日) (至 平成17年10月12日)	0.0043 円
第23計算期間 (自 平成17年10月13日) (至 平成17年11月14日)	0.0043 円
第5特定期間	(0.0043 円)
第24計算期間 (自 平成17年11月15日) (至 平成17年12月12日)	0.0043 円

(注) 第5特定期間は第24計算期間から第29計算期間(平成17年11月15日から平成18年5月12日)までです。

③収益率の推移

	計算期間	収益率 (%)
第1特定期間	自 平成15年11月14日 至 平成16年 5月12日	1.1
第2特定期間	自 平成16年 5月13日 至 平成16年11月12日	0.3
第3特定期間	自 平成16年11月13日 至 平成17年 5月12日	-1.4
第4特定期間	自 平成17年 5月13日 至 平成17年11月14日	4.0
第5特定期間中	自 平成17年11月15日 至 平成17年12月12日	3.2

(注) 収益率は以下の計算式により算出しております。

(当該特定期間末分配付基準価額－当該特定期間の直前の特定期間末分配落基準価額) ÷ (当該特定期間の直前の特定期間末分配落基準価額) × 100

ただし、第1特定期間については「当該特定期間の直前の特定期間末分配落基準価額」に代えて設定時の基準価額(10,000円)を用いております。

ファンドの財務ハイライト情報

- 以下の情報は、有価証券届出書「第三部ファンドの詳細情報 第3ファンドの経理状況」に記載されている「財務諸表」から抜粋して記載したものです。
- ファンドの「財務諸表」については、中央青山監査法人による監査を受けております。
また、当該監査法人による監査報告書は、有価証券届出書「第三部ファンドの詳細情報 第3ファンドの経理状況」に記載されている「財務諸表」に添付されています。

(1) 貸借対照表

区分	前期 (平成17年5月12日現在)	当期 (平成17年11月14日現在)
	金額 (円)	金額 (円)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	2,161,597,252	2,065,195,453
証券投資信託受益証券	29,241,888,173	43,246,318,470
投資証券	29,215,377,865	42,911,230,284
未収利息	59	56
流動資産合計	60,618,863,349	88,222,744,263
資産合計	60,618,863,349	88,222,744,263
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	367,194	205,879
未払金	479,904,197	113,612,893
未払収益分配金	260,521,030	368,473,030
未払解約金	32,219,566	44,595,107
未払受託者報酬	1,484,727	2,478,704
未払委託者報酬	32,169,093	53,705,258
その他未払費用	739,747	760,253
流動負債合計	807,405,554	583,831,124
負債合計	807,405,554	583,831,124
純資産の部		
元本		
元本	60,586,286,173	85,691,402,439
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金(△)	△774,828,378	1,947,510,700
(分配準備積立金)	(174,746,782)	(1,437,464,873)
剰余金合計	△774,828,378	1,947,510,700
純資産合計	59,811,457,795	87,638,913,139
負債・純資産合計	60,618,863,349	88,222,744,263

(2) 損益及び剰余金計算書

区分	前期 (自 平成16年11月13日 至 平成17年 5月12日)	当期 (自 平成17年 5月13日 至 平成17年11月14日)
	金額 (円)	金額 (円)
経常損益の部		
営業損益の部		
営業収益		
受取配当金	1,333,457,727	2,120,144,222
受取利息	6,606	8,971
有価証券売買等損益	△403,040,726	1,652,350,059
為替差損益	△455,532,101	947,400,441
営業収益合計	474,891,506	4,719,903,693
営業費用		
受託者報酬	7,197,220	12,049,930
委託者報酬	155,939,728	261,081,737
その他費用	739,747	760,253
営業費用合計	163,876,695	273,891,920
営業利益	311,014,811	4,446,011,773
経常利益	311,014,811	4,446,011,773
当期純利益	311,014,811	4,446,011,773
一部解約に伴う当期純利益分配額	—	24,119,369
一部解約に伴う当期純損失分配額	833,222	—
期首剰余金又は期首欠損金 (△)	202,932,619	△774,828,378
欠損金減少額	—	295,187,529
(当期追加信託に伴う欠損金減少額)	—	(295,187,529)
剰余金減少額	37,775,902	—
(当期一部解約に伴う剰余金減少額)	(1,908,604)	—
(当期追加信託に伴う剰余金減少額)	(35,867,298)	—
欠損金増加額	—	29,377,279
(当期一部解約に伴う欠損金増加額)	—	(29,377,279)
分配金	1,251,833,128	1,965,363,576
期末剰余金又は期末欠損金 (△)	△774,828,378	1,947,510,700

重要な会計方針

項目	前期 (自 平成16年11月13日 至 平成17年 5月12日)	当期 (自 平成17年 5月13日 至 平成17年11月14日)
1 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>(1) 証券投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。時価評価にあたっては、当該証券投資信託受益証券の基準価額で評価しております。</p> <p>(2) 投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、当該投資証券の基準価額で評価しております。</p>	<p>(1) 証券投資信託受益証券 同左</p> <p>(2) 投資証券 同左</p>
2 デリバティブ等の評価基準及び評価方法	<p>為替予約取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として特定期間末日の対顧客先物売買相場において為替予約の受渡日の仲値が発表されている場合には当該仲値、受渡日の仲値が発表されていない場合には発表されている受渡日に最も近い前後二つの日の仲値をもとに計算しております。</p>	<p>為替予約取引 同左</p>
3 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金 原則として、証券投資信託受益証券および投資証券の収益分配金落ち日において、当該収益分配金金額を計上しております。</p>	<p>受取配当金 同左</p>

<p>4 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項</p>	<p>外貨建取引等の処理基準</p> <p>外貨建取引については、「投資信託財産の貸借対照表、損益及び剰余金計算書、附属明細表並びに運用報告書に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。</p> <p style="text-align: center;">—</p>	<p>外貨建取引等の処理基準</p> <p>同左</p> <p>特定期間末日の取扱い</p> <p>平成17年11月12日が休日のため、信託約款第34条により、当特定期間末日を平成17年11月14日としており、このため、当特定期間は186日間となっております。</p>
----------------------------------	--	--

追加型証券投資信託

CA 米国・ユーロ投資適格債ファンド

信 託 約 款

クレディ・アグリコル アセットマネジメント株式会社

追加型証券投資信託
CA 米国・ユーロ投資適格債ファンド

運用の基本方針

約款 22 条の規定に基づき委託者が別に定める運用の基本方針は、次のものとします。

1. 基本方針

当ファンドは、ファンド・オブ・ファンズ的方式で運用することを基本とします。主として、米国債券市場(社債等)へ投資するファンドとユーロ債券市場(国債等公共債・国際機関債・社債等)へ投資するファンドの毎月分配クラスに投資することにより、その実質的な運用はそれぞれの投資先ファンドが行い、中長期的な信託財産の着実な成長と安定的な収益確保を図ることを目指して運用を行うことを基本方針とします。

2. 運用方法

(1) 投資対象

主として、米国債券市場(社債等)へ投資する日本籍の「ドイチェ・米国投資適格社債ファンド(適格機関投資家専用)」と、ユーロ債券市場(国債等公共債・国際機関債・社債等)へ投資するルクセンブルグ籍の「CAF ユーロ・ボンド・ファンド」及び「CAFユーロ・コーポレート・ボンド・ファンド」の毎月分配クラスを主な投資対象とします。なお、CP、CD、預金、指定金銭信託、コール・ローン及び手形割引市場において売買される手形に直接投資することがあります。原則として、為替ヘッジは行いません。

(2) 投資態度

- ① 主として、米国債券市場へ投資する投資信託証券「ドイチェ・米国投資適格社債ファンド(適格機関投資家専用)」及びユーロ債券市場へ投資する投資信託証券「CAF ユーロ・ボンド・ファンド」及び「CAF ユーロ・コーポレート・ボンド・ファンド」の毎月分配クラスに投資します。
- ② 米国債券市場へ投資する投資信託証券とユーロ債券市場へ投資する投資信託証券の組入比率は、原則として、均等配分を基本とします。委託会社の判断により、為替や各投資信託証券の基準価額の変動を考慮し、3ヵ月毎にリバランスを行います。
- ③ 投資信託証券の組入比率は、原則として高位を維持することを基本とします。
- ④ 投資信託証券への投資にあたっては、委託会社が指定する投資信託証券を通して、分散投資を行うことを基本とします。投資信託証券への投資の結果、全体のポートフォリオの格付が、原則としてシングル A 格【A-格(スタンダード&プアーズ社)/A3 格(ムーディーズ社)】以上とすることを目指します。また、各投資信託証券の組入対象債券の格付は、原則として、投資適格債(トリプル B 格(BBB-/Baa3)以上)とします。
- ⑤ 組入投資信託証券は、委託会社の判断により、適宜見直しを行います。この場合において、組入対象とされていた投資信託証券は、変更されることがあります。
- ⑥ 資金動向、市況動向等の急変により前記の運用が困難となった場合、暫定的に前記と異なる運用を行う場合があります。

(3) 投資制限

- ① 投資信託証券以外への投資は、約款第 21 条の範囲内で行います。
- ② 株式(新株引受権証券及び新株予約権証券を含みます)への直接投資は行いません。
- ③ 外貨建資産(外貨建資産を組入可能な投資信託証券を含みます)の投資割合には制限を設けません。
- ④ 原則として実質的に複数のファンドに投資し、かつ 1 ファンドへの投資割合は純資産総額の 50%を超えないものとします。ただし、約款若しくは定款等において、ファンド・オブ・ファンズにのみ取得される(販売会社及び運用会社が一時取得する場合を含みます)ファンドであることが記載されているファンドを組入れる場合には 50%以上の取得ができるものとします。

3. 収益分配方針

ファンドは、毎決算時(毎月12日。休日の場合は翌営業日とします)に、原則として次の方針により分配を行います。ただし、第1回目の収益分配は、平成16年1月とします。

- ① 分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当収入と売買益(評価益を含みます)等の全額とします。
- ② 分配金額は、委託会社が基準価額水準及び市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益額が少額の場合には分配を行わないこともあります。
- ③ 留保額の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

追加型証券投資信託
CA 米国・ユーロ投資適格債ファンド

信 託 約 款

(信託の種類、委託者及び受託者)

第1条 この信託は、証券投資信託であり、クレディ・アグリコル アセットマネジメント株式会社を委託者とし、りそな信託銀行株式会社を受託者とします。

(信託事務の委託)

第2条 受託者は、信託法第 26 条第 1 項に基づき、信託事務の処理の一部について、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律第 1 条第 1 項の規定による信託業務の兼営の認可を受けた一の金融機関と信託契約を締結し、これを委託することができます。

(信託の目的、金額及び限度額)

第3条 委託者は、金 500 億円を限度として受益者のために利殖の目的をもって信託し、受託者はこれを引受けます。

- ② 委託者は、受託者と合意のうえ、金 5,000 億円を限度として信託金を追加することができるものとし、追加信託が行われたときは、受託者はその引受を証する書面を委託者に交付します。
- ③ 委託者は、受託者と合意のうえ、前項の限度額を変更することができます。

(信託期間)

第4条 この信託の期間は、信託契約締結日から第 43 条第 1 項、第 44 条第 1 項、第 45 条第 1 項及び第 47 条第 2 項の規定による信託終了の日までとします。

(受益証券の取得申込みの勧誘の種類)

第5条 この信託にかかる受益証券の取得申込みの勧誘は、証券取引法第 2 条第 3 項第 1 号に掲げる場合に該当し、投資信託及び投資法人に関する法律第 2 条第 13 項で定める公募により行われます。

(当初の受益者)

第6条 この信託契約締結当初及び追加信託当初の受益者は、委託者の指定する受益証券取得申込者とし、第 7 条により分割された受益権は、その取得申込口数に応じて、取得申込者に帰属します。

(受益権の分割及び再分割)

第7条 委託者は、第 3 条第 1 項の規定による受益権については、500 億口を限度として、追加信託によって生じた受益権については、これを追加信託のつど第 8 条第 1 項の追加口数に、それぞれ均等に分割します。

- ② 委託者は、受託者と協議のうえ、一定日現在の受益権を均等に再分割できます。

(追加信託の価額及び口数、基準価額の計算方法)

第8条 追加信託金は、追加信託を行う日の前営業日の基準価額に当該追加信託にかかる受益権の口数を乗じた額とします。

- ② この約款において基準価額とは、信託財産に属する資産(受入担保金代用有価証券を除きます)を法令及び社団法人投資信託協会規則に従って時価又は一部償却原価法により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額(以下「純資産総額」といいます)を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。なお、外貨建資産(外国通貨表示の有価証券(以下「外貨建有価証券」といいます)、預金その他の資産をいいます。以下同じ)の円換算については、原

則として、わが国における当日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算します。

- ③ 第24条に規定する予約為替の評価は、原則として、わが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。

(信託日時の異なる受益権の内容)

第9条 この信託の受益権は、信託の日時を異にすることにより差異を生ずることはありません。

(受益証券の発行)

第10条 委託者は、第7条の規定により分割された受益権を表示する収益分配金交付票付の無記名式の受益証券を発行します。

(受益証券の発行についての受託者の認証)

第11条 委託者は、受益証券を発行するときは、その発行する受益証券がこの信託約款に適合する旨の受託者の認証を受けなければなりません。

- ② 前項の認証は、受託者の代表取締役がその旨を受益証券に記載し記名捺印することによって行います。

(受益証券の申込単位、価額及び手数料等)

第12条 委託者の指定する証券会社(証券取引法第2条第9項に規定する証券会社をいい、外国証券業者に関する法律第2条第2号に規定する外国証券会社を含みます。以下同じ)及び登録金融機関(証券取引法第65条の2第3項に規定する登録金融機関をいいます。以下同じ)は、第10条の規定により発行された受益証券を、その取得申込者に1万口以上1万口単位をもって当該受益証券の取得の申込に応ずるものとします。ただし、委託者の指定する証券会社または登録金融機関と別に定める「自動けいぞく投資約款」にしたがって契約(以下「別に定める契約」といいます)を結んだ取得申込者に対しては、1口の整数倍をもって取得の申込に応ずることとします。この約款において別に定める契約とは、この信託について受益証券取得申込者と委託者の指定する証券会社及び登録金融機関が締結する別に定める契約と別の名称で同様の権利義務関係を規定する契約を含むものとします。この場合別に定める契約は当該別の名称に読み替えるものとします。

- ② 前項の規定にかかわらず、取得申込日がファンドの休業日(日本の証券取引所の休業日、パリ、ルクセンブルグの銀行休業日及びニューヨーク証券取引所の休業日あるいは米国債券市場協会が定める休業日(一般に米国の銀行休業日に相当)であることを指します。以下同じ)にあたる場合は、受益証券の取得の申込を受付けないものとします。
- ③ 1. 前項の受益証券の価額は、取得申込受付日の翌営業日の基準価額に、手数料及び当該手数料にかかる消費税並びに地方消費税(以下「消費税等」といいます)に相当する金額を加算した価額とします。ただし、取得日がこの信託契約締結の日であるときは、受益証券の価額は、1口につき1円に、手数料及び当該手数料にかかる消費税等に相当する金額を加算した価額とします。
2. 前項の手数料の額は、2.0%を上限として委託者の指定する証券会社及び登録金融機関が個別に定める料率を乗じて得た金額とします。
- ④ 前各項の規定にかかわらず、受益者が第39条第2項の規定に基づいて収益分配金を再投資する場合の受益証券の価額は、原則として第34条に規定する各計算期間終了日の基準価額とします。
- ⑤ 委託者は、証券取引所における取引の停止、決済機能の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、取得申込の受付を中止すること及び取得申込の受付を延期することができます。

(受益証券の種類)

第13条 委託者が発行する受益証券は、1万口券、5万口券、10万口券、50万口券、100万口券、500万口券、1,000万口券、1億口券、の8種類とします。

- ② 委託者の指定する証券会社及び登録金融機関は、第1項の受益証券を原則として保護預り契約に

基づき保管するものとします。

- ③ 委託者の指定する証券会社または登録金融機関と受益証券取得申込者との間に結ばれた別に定める契約及び保護預り契約に基づいて委託者の指定する証券会社または登録金融機関が保管する受益証券の種類は、第1項に定めるもののほか、1口の整数倍の口数を表示した受益証券とすることができます。

(受益証券の記名式、無記名式への変更並びに名義書換手続)

第14条 委託者は、受益者が委託者の定める手続によって請求したときは、無記名式の受益証券と引換に記名式の受益証券を、または記名式の受益証券と引換に無記名式の受益証券を交付します。

- ② 記名式の受益証券の所持人は、委託者の定める手続によって名義書換を委託者に請求することができます。
- ③ 前項の規定による名義書換の手続は、第34条に規定する毎計算期間の末日の翌日から15日間停止します。

(記名式の受益証券譲渡の対抗要件)

第15条 記名式の受益証券の譲渡は、前条の規定による名義書換によらなければ、委託者及び受託者に対抗することができません。

(無記名式の受益証券の再交付)

第16条 委託者は、無記名式の受益証券を喪失した受益者が、当該受益証券の公示催告による除権判決の謄本を添え、委託者の定める手続により再交付を請求したときは、無記名式の受益証券を再交付します。

(記名式の受益証券の再交付)

第17条 委託者は、記名式の受益証券を喪失した受益者が、委託者の定める手続により再交付を請求したときは、記名式の受益証券を再交付します。

(受益証券を毀損した場合等の再交付)

第18条 委託者は、受益証券を毀損または汚損した受益者が、受益証券を添え、委託者の定める手続により再交付を請求したときは、受益証券を再交付します。ただし、真偽を鑑別しがたいときは、前2条の規定を準用します。

(受益証券の再交付の費用)

第19条 委託者は、受益証券を再交付するときは、受益者に対して実費を請求することができます。

(投資の対象とする資産の種類)

第20条 この信託において投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

1. 次に掲げる特定資産(「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ)
 - イ. 有価証券
 - ロ. 金銭債権
 - ハ. 約束手形(証券取引法第2条第1項第8号に掲げるもの(CP)を除きます)
 - ニ. 金銭を信託する信託の受益権
2. 次に掲げる特定資産以外の資産
 - 為替手形

(運用の指図範囲)

第21条 委託者は、信託金を、主として、別に定める投資信託証券のほか、次の有価証券(本邦通貨表示のものに限ります)に投資することを指図します。

1. コマーシャル・ペーパー及び短期社債等
2. 外国または外国法人の発行する証券または証書で、前号の証券の性質を有するもの

また、「別に定める投資信託証券」とは次のものをいいます。

1. 「ドイチェ・米国投資適格社債ファンド(適格機関投資家専用)」(日本籍)
 2. 「CAF ユーロ・ボンド・ファンド」(ルクセンブルグ籍)の毎月分配クラス
 3. 「CAF ユーロ・コーポレート・ボンド・ファンド」(ルクセンブルグ籍)の毎月分配クラス
- ② 委託者は、信託金を、前項各号に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品により運用することを指図することができます。
1. 預金
 2. 指定金銭信託
 3. コール・ローン
 4. 手形割引市場において売買される手形
- ③ 第1項の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託者が運用上必要と認めるときには、委託者は、信託金を、前項第1号から第4号までに掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

(運用の基本方針)

第22条 委託者は、信託財産の運用にあたっては、別に定める運用の基本方針に従って、その指図を行います。

(特別の場合の外貨建有価証券への投資制限)

第23条 外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。

(外国為替予約取引の指図及び範囲)

第24条 委託者は、信託財産に属する外貨建資産について、当該外貨建資産の為替ヘッジのため、外国為替の売買の予約を指図することができます。

(保管業務の委任)

第25条 受託者は、委託者と協議のうえ、信託財産に属する資産を外国で保管する場合には、その業務を行うに十分な能力を有すると認められる金融機関と保管契約を締結し、これを委任することができます。

(投資信託証券等の保管)

第26条 受託者は、信託財産に属する投資信託証券を、当該信託にかかる受益証券の保護預り契約等に基づいて、当該契約の相手方に預託し保管させることができます。

- ② 受託者は、信託財産に属する有価証券を、法令等に基づき、保管振替機関等に預託し保管させることができます。

(混蔵寄託)

第27条 金融機関または証券会社から、売買代金及び償還金等について円貨で約定し円貨で決済する取引により取得した外国において発行された譲渡性預金証書またはコマーシャル・ペーパーは、当該金融機関または証券会社が保管契約を締結した保管機関に当該金融機関または証券会社の名義で混蔵寄託できるものとします。

(信託財産の表示及び記載の省略)

第28条 信託財産に属する有価証券については、委託者または受託者が必要と認める場合のほか、信託の表示及び記載をしません。

(有価証券売却等の指図)

第29条 委託者は、信託財産に属する投資信託証券にかかる信託契約の一部解約請求及び有価証券の売却等の指図ができます。

(再投資の指図)

第30条 委託者は、前条の規定による投資信託証券の一部解約金、有価証券の売却代金、有価証券にかかる償還金等、有価証券等にかかる利子等及びその他の収入金を再投資することの指図ができます。

(資金の借入れ)

第31条 委託者は、信託財産の効率的な運用並びに運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て(一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます)を目的として、資金借入れ(コール市場を通じる場合を含みます)の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。

- ② 一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する金融商品の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が 5 営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券の売却代金、金融商品の解約代金及び有価証券等の償還金の合計額を限度とします。
- ③ 借入金の利息は信託財産中より支弁します。

(損益の帰属)

第32条 委託者の指図に基づく行為により信託財産に生じた利益及び損失は、すべて受益者に帰属します。

(受託者による資金の立替え)

第33条 信託財産に属する有価証券について、借替がある場合で、委託者の申出があるときは、受託者は資金の立替えをすることができます。

- ② 信託財産に属する有価証券にかかる償還金等、有価証券等にかかる利子等、投資信託証券の配当金及びその他の未収入金で、信託終了日までにその金額を見積りうるものがあるときは、受託者がこれを立替えて信託財産に繰入れることができます。
- ③ 前2項の立替金の決済及び利息については、受託者と委託者との協議によりそのつど別にこれを定めます。

(信託の計算期間)

第34条 この信託の計算期間は、毎月 13 日から翌月 12 日までとすることを原則とします。ただし、第 1 計算期間は信託契約締結日から平成 16 年 1 月 13 日までとします。

- ② 前項にかかわらず、前項の原則により各計算期間終了日に該当する日(以下「該当日」といいます)が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日は、第 4 条に定める信託期間の終了日とします。

(信託財産に関する報告)

第35条 受託者は、毎計算期末に損益計算を行い、信託財産に関する報告書を作成して、これを委託者に提出します。

- ② 受託者は、信託終了のときに最終計算を行い、信託財産に関する報告書を作成して、これを委託者に提出します。

(信託事務等の諸費用)

第36条 信託財産に関する租税その他信託事務の処理に要する諸費用並びに受託者の立替えた立替金の利息(以下「諸経費」といいます)は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

- ② 信託財産の財務諸表の監査に要する費用(消費税等相当額を含みます)は、第34条に規定する計算期間を通じて毎日、合理的な金額を当該計算期間の日数で除して計算し、信託契約締結日から6ヵ月毎の計算期末の翌営業日までに、または信託終了のとき信託財産中より支弁します。

(信託報酬等の額及び支弁の方法)

第37条 委託者及び受託者の信託報酬の総額は、第34条に規定する計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年10,000分の83の率以内を乗じて得た額とします。

- ② 前項の信託報酬は、毎計算期末、または信託終了のとき信託財産中より支弁するものとし、委託者と受託者との間の配分は別に定めます。
- ③ 第1項の信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を、信託報酬支弁のときに信託財産中から支弁します。
- ④ 委託者は、受託者の同意のうえ、前記に規定する率以内で信託報酬率を変更することができます。

(収益の分配方式)

第38条 信託財産から生ずる毎計算期末における利益は、次のように処理します。ただし、第1回目の収益分配は、平成16年1月とします。

1. 配当金、利子及びこれらに類する収益から支払利息を控除した額(以下「配当等収益」といいます)は、諸経費、信託報酬及び当該信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を控除した後、その残金を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配金に充てるため、その一部を分配準備積立金として積立てることができます。
 2. 売買損益に評価損益を加減した利益金額(以下「売買益」といいます)は、諸経費、信託報酬及び当該信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を控除し、繰越欠損金のあるときは、その金額を売買益をもって補てんした後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配に充てるため、分配準備積立金として積立てることができます。
- ② 毎計算期末において、信託財産につき生じた損失は、次期に繰越します。

(収益分配金、償還金及び一部解約金の支払い)

第39条 収益分配金は、毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託者の指定する日から収益分配金交付票と引換に受益者に支払います。

- ② 前項の規定にかかわらず、別に定める契約に基づいて収益分配金を再投資する受益者に対しては、委託者は、原則として毎計算期間終了日の翌営業日に収益分配金を委託者の指定する証券会社及び登録金融機関に交付します。この場合、委託者の指定する証券会社及び登録金融機関は、別に定める契約に基づき受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資にかかる受益証券の販売を行います。
- ③ 償還金(信託終了時における信託財産の純資産総額を受益権口数で除した額をいいます。以下同じ)は、信託終了日後1ヵ月以内の委託者の指定する日から受益証券と引換に受益者に支払います。
- ④ 一部解約金は、受益者の請求を受付けた日から起算して、原則として5営業日目から受益者に支払います。
- ⑤ 前各項に規定する収益分配金、償還金及び一部解約金の支払いは、委託者の指定する証券会社または登録金融機関の営業所等において行うものとします。
- ⑥ 収益分配金、償還金及び一部解約金にかかる収益調整金は、原則として受益者毎の信託時の受益証券の価額等に応じて計算されるものとします。
- ⑦ 前項に規定する「収益調整金」は、所得税法施行令第27条の規定によるものとし、受益者毎の信託時の受益証券の価額と元本の差額をいい、原則として、追加信託のつど当該口数により加重

平均され、収益分配のつど調整されるものとします。また、前項に規定する「受益者毎の信託時の受益証券の価額等」とは、原則として、各受益者毎の信託時の受益証券の価額をいい、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとします。

- ⑧ 記名式の受益証券を有する受益者は、あらかじめその印鑑を届出するものとし、第1項の場合は収益分配金交付票に、第3項及び第4項の場合には受益証券に、記名し届出印を押捺するものとします。
- ⑨ 委託者は、前項の規定により押捺された印影を届出印と照合し、相違ないものと認めて収益分配金及び償還金もしくは一部解約金の支払いをしたときは、印鑑の盗用その他の事情があっても、そのために生じた損害について、その責を負わないものとします。

(収益分配金及び償還金の時効)

第40条 受益者が、収益分配金について前条第1項に規定する支払開始日から5年間その支払いを請求しないとき、並びに信託終了による償還金については前条第3項に規定する支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、委託者が受託者から交付を受けた金銭は、委託者に帰属します。

(収益分配金、償還金及び一部解約金の委託者への交付と支払いに関する受託者の免責)

第41条 受託者は、収益分配金については、原則として毎計算期間終了日の翌営業日までに、償還金については第39条第3項に規定する支払開始日の前日までに、一部解約金については第39条第4項に規定する支払日までに、その全額を委託者に交付します。

- ② 受託者は、前項の規定により委託者に収益分配金、償還金及び一部解約金を交付した後は、受益者に対する支払いにつき、その責に任じません。

(一部解約)

第42条 受益者(委託者の指定する証券会社及び登録金融機関を含みます)は、自己の有する受益証券につき、委託者に1万口単位(別に定める契約にかかる受益証券並びに委託者の指定する証券会社及び登録金融機関の所有にかかる受益証券については1口の整数倍)をもって一部解約の実行を請求することができます。

- ② 前項の規定にかかわらず、一部解約の実行の請求日がファンドの休業日にあたる場合においては、委託者は一部解約の実行の請求を受付けないものとします。
- ③ 受益者が第1項の一部解約の実行の請求をするときは、委託者の指定する証券会社及び登録金融機関に対し、受益証券をもって行うものとします。
- ④ 委託者は、第1項の一部解約の実行の請求を受付けた場合には、この信託契約の一部を解約します。
- ⑤ 前項の一部解約の価額は、当該一部解約の実行の請求日の翌営業日の基準価額とします。
- ⑥ 委託者は、証券取引所における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、第1項による一部解約の実行の請求の受付を中止することができます。
- ⑦ 前項により一部解約の実行の請求の受付が中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該証券の一部解約の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日(この計算日が第2項に規定する一部解約の請求を受付けない日であるときは、この計算日以降の最初の一部解約の請求を受付けることができる日とします)に一部解約の実行の請求を受付けたものとして第5項の規定に準じて計算された価額とします。

(信託契約の解約)

第43条 委託者は、第4条の規定による信託終了前に、信託契約の一部を解約することにより受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合、またはこの信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、もしくはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託者は、あら

はじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届出ます。

- ② 委託者は、前項の事項について、あらかじめ、解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面をこの信託契約にかかる知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託契約にかかるすべての受益者に対して書面を交付した時は、原則として、公告を行いません。
- ③ 前項の公告及び書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託者に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。
- ④ 前項の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、第1項の信託契約の解約をしません。
- ⑤ 委託者は、この信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨及びその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
- ⑥ 第3項から前項までの規定は、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、第3項の一定の期間が一月を下らずにその公告及び書面の交付を行うことが困難な場合には適用しません。

(信託契約に関する監督官庁の命令)

第44条 委託者は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令に従い、信託契約を解約し信託を終了させます。

- ② 委託者は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、第48条の規定にしたがいます。

(委託者の認可取消し等に伴う取扱い)

第45条 委託者が監督官庁より認可の取消しを受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託者は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。

- ② 前項の規定にかかわらず、監督官庁がこの信託契約に関する委託者の業務を他の投資信託委託業者に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、第48条第4項に該当する場合を除き、当該投資信託委託業者と受託者との間において存続します。

(委託者の営業の譲渡及び承継に伴う取扱い)

第46条 委託者は、営業の全部又は一部を譲渡することがあり、これに伴い、この信託契約に関する営業を譲渡することがあります。

- ② 委託者は、分割により営業の全部又は一部を承継させることがあり、これに伴い、この信託契約に関する営業を承継させることがあります。

(受託者の辞任に伴う取扱い)

第47条 受託者は、委託者の承諾を受けてその任務を辞任することができます。この場合、委託者は、第48条の規定にしたがい、新受託者を選任します。

- ② 委託者が新受託者を選任できないときは、委託者はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

(信託約款の変更)

第48条 委託者は、受益者の利益のため必要と認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この信託約款を変更することができるものとし、あらかじめ、変更しようとする旨及びその内容を監督官庁に届出ます。

- ② 委託者は、前項の変更事項のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ、変更しようとする旨及びその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託約款にかかる知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託約款にかかるすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
- ③ 前項の公告及び書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託者に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。

- ④ 前項の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、第1項の信託約款の変更をしません。
- ⑤ 委託者は、当該信託約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨及びその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

(反対者の買取請求権)

第49条 第43条に規定する信託契約の解約または前条に規定する信託約款の変更を行う場合において、第43条第3項または前条第3項の一定の期間内に委託者に対して異議を述べた受益者は、受託者に対し、自己の有する受益証券を、信託財産をもって買取るべき旨を請求することができます。

(公 告)

第50条 委託者が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。

(信託約款に関する疑義の取扱い)

第51条 この信託約款の解釈について疑義を生じたときは、委託者と受託者との協議により定めます。

前記条項により信託契約を締結します。

信託契約締結日 平成15年11月14日

委 託 者 東京都千代田区内幸町1丁目2番2号
クレディ・アグリコル アセットマネジメント株式会社
代表取締役 青野 晴延

受 託 者 東京都千代田区大手町1丁目1番2号
りそな信託銀行株式会社
取締役社長 新井 信彦

CA 米国・ユーロ投資適格債ファンド
追加型証券投資信託/ファンド・オブ・ファンズ

投資信託説明書(請求目論見書)
2006年2月

クレディ・アグリコル アセットマネジメント株式会社

本書は証券取引法の規定に基づき、投資家の請求により交付される目論見書(請求目論見書)です。

1. 本投資信託説明書（請求目論見書）により行う「CA 米国・ユーロ投資適格債ファンド」の受益証券の募集については、委託者は、証券取引法(昭和 23 年法第 25 号)の第 5 条の規定により有価証券届出書を平成 18 年 2 月 10 日に関東財務局長に提出しており、平成 18 年 2 月 11 日にその届出の効力が生じております。
2. 本投資信託説明書（請求目論見書）は、有価証券届出書「第三部 ファンドの詳細情報」の内容を記載したものであり、証券取引法の規定に基づき、投資家の請求により交付される目論見書です。
3. 「CA 米国・ユーロ投資適格債ファンド」の受益証券の価額は、同ファンドに組入れられている有価証券等の値動きや為替の変動による影響を受けますが、これらの運用による損益はすべて投資家の皆様に帰属いたします。
4. 当ファンドは元本及び分配金が保証されているものではありません。

投資信託は、その商品の性格から次の特徴をご理解のうえご購入くださいますようお願い申し上げます。

- ・投資信託は預金ではありません。
- ・投資信託は金融債ではありません。
- ・投資信託は預金保険の対象となりません。
- ・投資信託は値動きのある証券に投資するため、投資元本及び分配金が保証された商品ではありません。
- ・投資信託の設定・運用は投資信託委託会社が行います(証券会社・銀行は販売の窓口となります)。
- ・投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客さまが負うこととなります。
- ・登録金融機関を通じてご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。

（金融商品の販売等に関する法律に係る重要事項）

当ファンドは、主に内外の投資信託証券を通じて外貨建ての債券を投資対象としていますので、金利変動による組入債券の価格下落や、組入債券の発行体の倒産や財務状況の悪化及びそれらに関する外部評価の変化等により、基準価額は影響を受け、損失を被ることがあります。また、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資信託説明書(請求目論見書)の目次

第1	ファンドの沿革	1
第2	手続等	1
1	申込(販売)手続等	1
2	換金(解約)手続等	2
第3	管理及び運営	3
1	資産管理等の概要	3
①	資産の評価	3
②	保管	3
③	信託期間	3
④	計算期間	3
⑤	その他	3
2	受益者の権利等	5
第4	ファンドの経理状況	6
1	財務諸表	9
2	ファンドの現況	29
第5	設定及び解約の実績	29

第1 ファンドの沿革

平成15年11月14日 信託契約締結、当ファンドの設定・運用開始

第2 手続等

1 申込（販売）手続等

① 申込（販売）の申込手続等

ファンドの取得の申込は、委託会社が指定する販売会社の本支店営業所において取扱っております。販売会社によっては、一部の支店・営業所等で扱わない場合があります。なお、販売会社については委託会社にお問い合わせください。委託会社の照会先は下記の通りです。

クレディ・アグリコル アセットマネジメント株式会社 お客様サポートライン

電話番号 : 0120-202-900 (フリーダイヤル)

受付時間 : 月曜日～金曜日(祝休日を除く)の午前9時～午後5時
(半日営業日は午前9時～午前11時半)

インターネットホームページ : <http://www.jp.ca-assetmanagement.com>

② 販売取扱期間と販売価額

	販売取扱期間	販売価額
募集期間	平成18年2月11日(土)から 平成19年2月9日(金)まで*	申込日の翌営業日の基準価額

ただし、取得申込日がファンドの休業日(日本の証券取引所の休業日、パリ、ルクセンブルグの銀行休業日及びニューヨーク証券取引所の休業日あるいは米国債券市場協会が定める休業日(一般に米国の銀行休業日に相当)のいずれかに該当することを指します)にあたる場合は、受益証券の取得の申込を受付けないものとします。

* 募集期間は、前記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。

③ 申込単位

1万円以上1円単位または1万口以上1万口単位とします。

分配金の受取方法により、申込には「自動けいぞく投資コース」と、「一般コース」の2つがあります。ただし、販売会社によってはどちらか一方のみの取扱となる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

*「自動けいぞく投資コース」は、分配金を税引後無手数料で自動的に再投資するコースです。ただし、販売会社等によっては、自動的に分配金の再投資を行わず、収益の分配が行われたときに分配金を受取ることを選択することもできます。

*「一般コース」は、収益分配時に分配金を受取るコースです。

前記コースについて、途中で変更することはできません(ただし、全保有受益証券売却後に新たにご購入される場合を除きます)。

販売会社によっては、「自動けいぞく投資コース」においても分配金を定期的を受取るための定期引出契約(販売会社により名称が異なる場合があります。以下同じ)を締結することができる場合があります。また、販売会社によっては、毎月の予め指定する日に予め指定した金額をもって、受益証券の取得申込を行う「定時定額購入取引(積立)」(販売会社により名称が異なる場合があります。以下同じ)を取扱う場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

④ 申込手数料

2.1%(税抜2.0%)を上限として、販売会社が定めるものとします。

手数料率については、販売会社によって異なります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

また、委託会社のインターネットホームページ(<http://www.jp.ca-assetmanagement.com>)でも販売会社の申込手数料等をご覧いただけます。

第3 管理及び運営

1 資産管理等の概要

① 資産の評価

(i) 基準価額の算定

基準価額とは、信託財産に属する資産(受入担保金代用有価証券を除きます)を法令及び社団法人投資信託協会規則に従って時価又は一部償却原価法により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額(「純資産総額」といいます)を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。なお外貨建資産(外国通貨表示の有価証券(以下「外貨建有価証券」といいます)、預金その他の資産をいいます。以下同じ)の円換算については、原則として、日本における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算します。

予約為替の評価は、原則として、わが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。

(ii) 基準価額の算出頻度と公表

基準価額は、委託会社の営業日において日々算出され、委託会社及び販売会社に問い合わせることにより知ることができます。また、当日の基準価額は原則として、翌日の日本経済新聞、オープン基準価格「CAアセット」の欄に掲載されます。なお、基準価額は1万口単位で表示されたものが発表されます。

ファンドの基準価額について委託会社の照会先は下記の通りです。

クレディ・アグリコル アセットマネジメント株式会社 お客様サポートライン

電話番号 : 0120-202-900 (フリーダイヤル)

受付時間 : 月曜日～金曜日(祝休日を除く)の午前9時～午後5時
(半日営業日は午前9時～午前11時半)

インターネットホームページ : <http://www.jp.ca-assetmanagement.com>

② 保管

販売会社は、受益証券を原則として保護預り契約に基づいて保管(保護預り)するものとします。

③ 信託期間

信託期間は平成15年11月14日から無期限とします。ただし、後記「⑤その他(i)信託の終了」に該当する場合、信託は終了することがあります。

④ 計算期間

(i) この信託の計算期間は、毎月13日から翌月12日までとすることを原則とします。ただし、第1計算期間は信託契約締結日から平成16年1月13日までとします。

(ii) 各計算期間終了日に該当する日(以下「該当日」といいます)が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日は、信託期間の終了日とします。

⑤ その他

(i) 信託の終了

a. 委託会社は、次の場合、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます(以下「繰上償還」といいます)。この場合において、委託会社は、あらかじめ解約しようとする旨を監督官庁に届出ます。

i. 信託期間中において、信託契約の一部を解約することにより受益権の口数が10億口を下回った場合

ii. 信託期間中において、この信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき

iii. やむを得ない事情が発生したとき

委託会社は、前記に従い繰上償還させる場合、以下の手続により行います。

1) 委託会社は、あらかじめ解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面をこの信託契約にかかる知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託契約にかかるすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として公告を行いません。

2) 前記の公告及び書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は1ヵ月を下らないものとします。

【請求目論見書】

- 3) 当該一定期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、信託契約の解約をしません。
 - 4) 委託会社は、この信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨及びその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として公告を行いません。
 - 5) 前記2) から4) までの規定は、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、前記2) の一定の期間が1ヵ月を下らずにその公告及び書面の交付を行うことが困難な場合にも同様の取扱とします。
- b. 委託会社が、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたとき、その命令に従い、信託契約を解約し信託を終了させます。
 - c. 委託会社が監督官庁より認可の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したとき、委託会社は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。ただし、監督官庁がこの信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託業者に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、後記「(ii)信託約款の変更」のc. の異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときに該当する場合を除き、当該投資信託委託業者と受託会社との間において、存続します。
 - d. 受託会社が委託会社の承諾を受けてその任務を辞任した場合において、委託会社が新受託会社を選任できないとき、委託会社はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。
- (ii)信託約款の変更
- a. 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託約款を変更することができるものとし、あらかじめ変更しようとする旨及びその内容を監督官庁に届出ます。委託会社は、かかる変更事項のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ、変更しようとする旨及びその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託約款にかかる知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託約款にかかる全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として公告を行いません。
 - b. 前記a. の公告及び書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は1ヵ月を下らないものとします。
 - c. 前記b. の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、前記の信託約款の変更をしません。
 - d. 委託会社は、当該信託約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨及びその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
 - e. 委託会社は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、前記a. からd. までの規定に従います。
- (iii)反対者の買取請求権
- ファンドの信託契約の解約または信託約款の重要なものについて変更を行う場合において、一定の期間内に委託会社に対して異議を述べた受益者は、販売会社を通じて、受託会社に対し、自己の所有する受益証券を、信託財産をもって買取すべき旨を請求することができます。
- (iv)公告
- 委託会社が受益者に対してする公告は日本経済新聞に掲載します。
- (v)運用報告書の作成
- 委託会社は、5月と11月の計算期間の末日及び償還時に運用報告書を作成し、当該信託財産にかかる知られたる受益者に対して交付します。
- (vi)関係法人との契約の更改等に関する手続
- 販売会社との「受益証券の募集販売、買取及び解約の取扱並びに収益分配金及び償還金の支払等に関する契約」にかかる契約の有効期間は、契約締結の日から1年間とします。ただし、期間満了の3ヵ月前までに委託会社、販売会社いずれからも、別段の意思表示のないときは、自動的に1年間更新されるものとし、自動延長後の取扱についてもこれと同様とします。ただし、期間の途中においても必要がある時は、契約の一部を変更することができます。

(vii)ファンドが使用する愛称について

当ファンドは愛称として、「りそな ペア・インカム」もしくは「デュアル・インカム」という名称を用いることがあり、販売会社によって異なる愛称を用いることがあります。

2 受益者の権利等

受益者の有する主な権利は次の通りです。

① 収益分配金に対する請求権

- 1) 受益者は、委託者が決定した収益分配金を持分に応じて請求する権利を有します。
- 2) 収益分配金は、毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託者の指定する日（原則として決算日（休日の場合は翌営業日）から起算して5営業日目）から分配金交付票と引換えに受益者にお支払いします。収益分配金の支払は、販売会社の本支店営業所等において行うものとします。
- 3) 受益者は、収益分配金を支払開始日から5年間支払請求しないと権利を失います。

② 償還金に対する請求権

- 1) 受益者は、償還金を持分に応じて請求する権利を有します。
- 2) 償還金は、信託期間終了日後1ヵ月以内の委託者の指定する日（原則として償還日（休日の場合は当該償還日の翌営業日）から起算して5営業日目）から受益証券と引換えに受益者にお支払いします。償還金の支払は、販売会社の本支店営業所等において行うものとします。
- 3) 受益者は、償還金を支払開始日から10年間その支払を請求しないと権利を失い、委託者が受託者から交付を受けた金銭は、委託者に帰属します。

③ 解約（換金）請求権

- 1) 受益者は、1口単位または1万口単位で途中解約の実行を請求すること、または買取を請求することにより換金する権利を有します。
- 2) 解約代金は、解約請求を受付けた日から起算して、原則として5営業日目から受益者にお支払いします。
*買取の取扱については販売会社によって異なりますので、詳しくはお申込販売会社の本支店営業所等にお問い合せください。

④ 帳簿書類の閲覧権

受益者は、委託会社に対し、その営業時間内に当ファンドの信託財産に関する帳簿書類の閲覧及び謄写の請求をすることができます。

⑤ 反対者の買取請求権

信託契約の解約、または信託約款の重大な変更を行う場合において、一定の期間内に委託者に対して異議を述べた受益者は、受託者に対し、自己の有する受益証券を信託財産をもって買取るべき旨を請求することができます。

【請求目論見書】

第4 ファンドの経理状況

(1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の貸借対照表、損益及び剰余金計算書、附属明細表並びに運用報告書に関する規則」(平成12年総理府令第133号)に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドの計算期間は6ヵ月未満であるため、財務諸表は6ヵ月ごとに作成しております。

(3) 当ファンドは、証券取引法第193条の2の規定に基づき、前特定期間(平成16年11月13日から平成17年5月12日まで)及び当特定期間(平成17年5月13日から平成17年11月14日まで)の財務諸表について、中央青山監査法人により監査を受けております。

独立監査人の監査報告書

平成17年7月7日

クレディ・アグリコル アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

中央青山監査法人



指定社員 公認会計士
業務執行社員

清水 毅 

当監査法人は、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているCA米国・ユーロ投資適格債ファンドの平成16年11月13日から平成17年5月12日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、CA米国・ユーロ投資適格債ファンドの平成17年5月12日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

クレディ・アグリコル アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

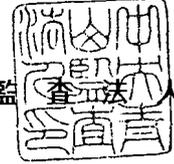
以上

独立監査人の監査報告書

平成18年1月17日

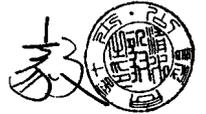
クレディ・アグリコル アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

中央青山監査法人



指定社員
業務執行社員 公認会計士

清水 表



指定社員
業務執行社員 公認会計士

松本 克雄



当監査法人は、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているCA米国・ユーロ投資適格債ファンドの平成17年5月13日から平成17年11月14日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、CA米国・ユーロ投資適格債ファンドの平成17年11月14日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

クレディ・アグリコル アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

1 財務諸表

CA 米国・ユーロ投資適格債ファンド

(1) 貸借対照表

区分	注記 番号	前期 (平成17年5月12日現在)	当期 (平成17年11月14日現在)
		金額 (円)	金額 (円)
資産の部			
流動資産			
コール・ローン		2,161,597,252	2,065,195,453
証券投資信託受益証券		29,241,888,173	43,246,318,470
投資証券		29,215,377,865	42,911,230,284
未収利息		59	56
流動資産合計		60,618,863,349	88,222,744,263
資産合計		60,618,863,349	88,222,744,263
負債の部			
流動負債			
派生商品評価勘定		367,194	205,879
未払金		479,904,197	113,612,893
未払収益分配金		260,521,030	368,473,030
未払解約金		32,219,566	44,595,107
未払受託者報酬		1,484,727	2,478,704
未払委託者報酬		32,169,093	53,705,258
その他未払費用		739,747	760,253
流動負債合計		807,405,554	583,831,124
負債合計		807,405,554	583,831,124
純資産の部			
元本			
元本	※1	60,586,286,173	85,691,402,439
剰余金			
期末剰余金又は期末欠損金(△)		△774,828,378	1,947,510,700
(分配準備積立金)		(174,746,782)	(1,437,464,873)
剰余金合計	※2	△774,828,378	1,947,510,700
純資産合計		59,811,457,795	87,638,913,139
負債・純資産合計		60,618,863,349	88,222,744,263

【請求目論見書】

(2) 損益及び剰余金計算書

区分	注記 番号	前期 (自 平成16年11月13日 至 平成17年 5月12日)	当期 (自 平成17年 5月13日 至 平成17年11月14日)
		金額 (円)	金額 (円)
経常損益の部			
営業損益の部			
営業収益			
受取配当金		1,333,457,727	2,120,144,222
受取利息		6,606	8,971
有価証券売買等損益		△403,040,726	1,652,350,059
為替差損益		△455,532,101	947,400,441
営業収益合計		474,891,506	4,719,903,693
営業費用			
受託者報酬		7,197,220	12,049,930
委託者報酬		155,939,728	261,081,737
その他費用		739,747	760,253
営業費用合計		163,876,695	273,891,920
営業利益		311,014,811	4,446,011,773
経常利益		311,014,811	4,446,011,773
当期純利益		311,014,811	4,446,011,773
一部解約に伴う当期純利益分配額		—	24,119,369
一部解約に伴う当期純損失分配額		833,222	—
期首剰余金又は期首欠損金 (△)		202,932,619	△774,828,378
欠損金減少額		—	295,187,529
(当期追加信託に伴う欠損金減少額)		—	(295,187,529)
剰余金減少額		37,775,902	—
(当期一部解約に伴う剰余金減少額)		(1,908,604)	—
(当期追加信託に伴う剰余金減少額)		(35,867,298)	—
欠損金増加額		—	29,377,279
(当期一部解約に伴う欠損金増加額)		—	(29,377,279)
分配金	※ 1	1,251,833,128	1,965,363,576
期末剰余金又は期末欠損金 (△)		△774,828,378	1,947,510,700

重要な会計方針

項目	前期 (自 平成16年11月13日 至 平成17年 5月12日)	当期 (自 平成17年 5月13日 至 平成17年11月14日)
1 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>(1) 証券投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。時価評価にあたっては、当該証券投資信託受益証券の基準価額で評価しております。</p> <p>(2) 投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、当該投資証券の基準価額で評価しております。</p>	<p>(1) 証券投資信託受益証券 同左</p> <p>(2) 投資証券 同左</p>
2 デリバティブ等の評価基準及び評価方法	<p>為替予約取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として特定期間末日の対顧客先物売買相場において為替予約の受渡日の仲値が発表されている場合には当該仲値、受渡日の仲値が発表されていない場合には発表されている受渡日に最も近い前後二つの日の仲値をもとに計算しております。</p>	<p>為替予約取引 同左</p>
3 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金 原則として、証券投資信託受益証券および投資証券の収益分配金落ち日において、当該収益分配金金額を計上しております。</p>	<p>受取配当金 同左</p>

【請求目論見書】

<p>4 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項</p>	<p>外貨建取引等の処理基準</p> <p>外貨建取引については、「投資信託財産の貸借対照表、損益及び剰余金計算書、附属明細表並びに運用報告書に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。</p> <p style="text-align: center;">—</p>	<p>外貨建取引等の処理基準</p> <p>同左</p> <p>特定期間末日の取扱い</p> <p>平成17年11月12日が休日のため、信託約款第34条により、当特定期間末日を平成17年11月14日としており、このため、当特定期間は186日間となっております。</p>
----------------------------------	--	--

注記事項

(貸借対照表関係)

項 目	前期 (平成17年5月12日)	当期 (平成17年11月14日)
※1 期首元本額 期中追加設定元本額 期中解約元本額	34,370,519,914 円 27,865,825,007 円 1,650,058,748 円	60,586,286,173 円 28,707,056,711 円 3,601,940,445 円
※2 元本の欠損	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は 774,828,378 円であります。	—

(損益及び剰余金計算書関係)

前期 (自 平成16年11月13日 至 平成17年5月12日)	当期 (自 平成17年5月13日 至 平成17年11月14日)
<p>※1 分配金の計算過程</p> <p>(平成16年11月13日から平成16年12月13日までの計算期間)</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益分配後の配当等収益から費用を控除した額 (167,560,761円)、解約に伴う当期純利益分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額 (0円)、信託約款に規定される収益調整金 (1,310,823,980円) 及び分配準備積立金 (208,864,331円) より分配対象収益は 1,687,249,072円 (1万口当たり437.88円) であり、うち165,686,059円 (1万口当たり43円) を分配金額としております。</p> <p>(平成16年12月14日から平成17年1月12日までの計算期間)</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益分配後の配当等収益から費用を控除した額 (168,072,158円)、解約に伴う当期純利益分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額 (0円)、信託約款に規定される収益調整金 (1,448,398,697円) 及び分配準備積立金 (209,232,268円) より分配対象収益は 1,825,703,123円 (1万口当たり435.39円) であり、うち180,306,911円 (1万口当たり43円) を分配金額としております。</p>	<p>※1 分配金の計算過程</p> <p>(平成17年5月13日から平成17年6月13日までの計算期間)</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益分配後の配当等収益から費用を控除した額 (273,038,769円)、解約に伴う当期純利益分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額 (0円)、信託約款に規定される収益調整金 (2,390,901,328円) 及び分配準備積立金 (173,850,959円) より分配対象収益は 2,837,791,056円 (1万口当たり435.28円) であり、うち280,335,479円 (1万口当たり43円) を分配金額としております。</p> <p>(平成17年6月14日から平成17年7月12日までの計算期間)</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益分配後の配当等収益から費用を控除した額 (314,105,810円)、解約に伴う当期純利益分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額 (571,973,950円)、信託約款に規定される収益調整金 (2,573,571,195円) 及び分配準備積立金 (165,323,952円) より分配対象収益は 3,624,974,907円 (1万口当たり519.78円) であり、うち299,883,902円 (1万口当たり43円) を分配金額としております。</p>

【請求目論見書】

<p>(平成17年1月13日から平成17年2月14日までの計算期間)</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益分配後の配当等収益から費用を控除した額</p> <p>(204,028,240円)、解約に伴う当期純利益分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、信託約款に規定される収益調整金(1,619,411,920円)及び分配準備積立金(195,615,963円)より分配対象収益は2,019,056,123円(1万口当たり437.35円)であり、うち198,508,947円(1万口当たり43円)を分配金額としております。</p> <p>(平成17年2月15日から平成17年3月14日までの計算期間)</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益分配後の配当等収益から費用を控除した額</p> <p>(201,206,578円)、解約に伴う当期純利益分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、信託約款に規定される収益調整金(1,751,586,844円)及び分配準備積立金(199,311,912円)より分配対象収益は2,152,105,334円(1万口当たり436.05円)であり、うち212,223,688円(1万口当たり43円)を分配金額としております。</p> <p>(平成17年3月15日から平成17年4月12日までの計算期間)</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益分配後の配当等収益から費用を控除した額</p> <p>(242,564,402円)、解約に伴う当期純利益分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、信託約款に規定される収益調整金(1,960,410,680円)及び分配準備積立金(187,462,801円)より分配対象収益は2,390,437,883円(1万口当たり438.17円)であり、うち234,586,493円(1万口当たり43円)を分配金額としております。</p>	<p>(平成17年7月13日から平成17年8月12日までの計算期間)</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益分配後の配当等収益から費用を控除した額</p> <p>(299,107,925円)、解約に伴う当期純利益分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、信託約款に規定される収益調整金(2,791,839,995円)及び分配準備積立金(743,825,356円)より分配対象収益は3,834,773,276円(1万口当たり517.95円)であり、うち318,358,751円(1万口当たり43円)を分配金額としております。</p> <p>(平成17年8月13日から平成17年9月12日までの計算期間)</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益分配後の配当等収益から費用を控除した額</p> <p>(332,075,389円)、解約に伴う当期純利益分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、信託約款に規定される収益調整金(3,018,071,283円)及び分配準備積立金(720,200,844円)より分配対象収益は4,070,347,516円(1万口当たり517.47円)であり、うち338,228,190円(1万口当たり43円)を分配金額としております。</p> <p>(平成17年9月13日から平成17年10月12日までの計算期間)</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益分配後の配当等収益から費用を控除した額</p> <p>(380,153,016円)、解約に伴う当期純利益分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(575,334,217円)、信託約款に規定される収益調整金(3,266,361,333円)及び分配準備積立金(709,311,558円)より分配対象収益は4,931,160,124円(1万口当たり588.86円)であり、うち360,084,224円(1万口当たり43円)を分配金額としております。</p>
---	--

<p>(平成17年4月13日から平成17年5月12日までの計算期間)</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益分配後の配当等収益から費用を控除した額 (240,997,127円)、解約に伴う当期純利益分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、信託約款に規定される収益調整金(2,205,059,913円)及び分配準備積立金(194,270,585円)より分配対象収益は2,640,327,625円(1万口当たり435.79円)であり、うち260,521,030円(1万口当たり43円)を分配金額としております。</p>	<p>(平成17年10月13日から平成17年11月14日までの計算期間)</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益分配後の配当等収益から費用を控除した額 (363,413,454円)、解約に伴う当期純利益分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(153,717,862円)、信託約款に規定される収益調整金(3,391,274,919円)及び分配準備積立金(1,288,806,587円)より分配対象収益は5,197,212,822円(1万口当たり606.50円)であり、うち368,473,030円(1万口当たり43円)を分配金額としております。</p>
--	--

(有価証券関係)

前期(平成17年5月12日現在)

売買目的有価証券

種類	貸借対照表計上額(円)	当期の損益に含まれた評価差額(円)
証券投資信託受益証券	29,241,888,173	△465,496,557
投資証券	29,215,377,865	62,818,924
合計	58,457,266,038	△402,677,633

当期(平成17年11月14日現在)

売買目的有価証券

種類	貸借対照表計上額(円)	当期の損益に含まれた評価差額(円)
証券投資信託受益証券	43,246,318,470	687,880,851
投資証券	42,911,230,284	△906,405,547
合計	86,157,548,754	△218,524,696

(デリバティブ取引等関係)

I 取引の状況に関する事項

項目	前期 (自平成16年11月13日 至平成17年5月12日)	当期 (自平成17年5月13日 至平成17年11月14日)
1. 取引の内容	当ファンドの利用しているデリバティブ取引は、為替予約取引であります。	同左
2. 取引に対する取組みと利用目的	外貨建資産の購入代金、売却代金、配当金等の受取りまたは支払にかかる円貨額を確定させるため、為替予約取引を行っております。	同左

【請求目論見書】

3. 取引に係るリスクの内容	一般的な為替予約取引に係る主要なリスクとして、為替相場の変動による価格変動リスク及び、取引相手の信用状況の変化により損失が発生する信用リスクがあります。当ファンドは、為替予約取引をスポットに限定しているため、価格変動リスクはきわめて小さいと認識しております。また、為替予約の相手先は社内ルールに従った金融機関に限定しているため、相手方の契約不履行に係る信用リスクはほとんどないと判断しております。	同左
4. 取引に係るリスク管理体制	組織的な管理体制により、日々ポジション、並びに評価金額及び評価損益の管理を行っております。	同左
5. 取引の時価等に関する事項についての補足説明	取引の時価等に関する事項についての契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。	同左

Ⅱ 取引の時価等に関する事項
通貨関連
前期（平成17年5月12日現在）

区分	種類	契約額等（円）		時価（円）	評価損益（円）
			うち1年超		
市場取引以外の取引	為替予約取引 買建 ユーロ	326,092,287	—	325,725,093	△367,194
	合計	326,092,287	—	325,725,093	△367,194

当期（平成17年11月14日現在）

区分	種類	契約額等（円）		時価（円）	評価損益（円）
			うち1年超		
市場取引以外の取引	為替予約取引 買建 ユーロ	113,810,565	—	113,604,686	△205,879
	合計	113,810,565	—	113,604,686	△205,879

時価の算定方法

1. 特定期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

①特定期間末日において為替予約の受渡日（以下「当該日」という）の対顧客先物売買相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

②特定期間末日において当該日の対顧客先物売買相場が発表されていない場合は以下の方法によって評価しております。

・特定期間末日に当該日を超える対顧客先物売買相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの先物相場の仲値をもとに計算したレートにより評価しております。

・特定期間末日に当該日を超える対顧客先物売買相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物売買相場の仲値により評価しております。

2. 特定期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない外貨については、特定期間末日の対顧客電信売買相場の仲値により評価しております。

3. 換算において円未満の端数は切捨てております。

（1口当たり情報）

	前期 （平成17年5月12日現在）	当期 （平成17年11月14日現在）
1口当たり純資産額	0.9872円	1.0227円
（1万口当たり純資産額）	（9,872円）	（10,227円）

【請求目論見書】

(3) 附属明細表

第1 有価証券明細表

① 株式

該当事項はありません。

② 株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	証券数量	評価額	備考
証券投資信託 受益証券	円	ドイチェ・米国投資適格社債 ファンド (適格機関投資家専用)	42,920,125,517	43,246,318,470	
	円	小計	42,920,125,517	43,246,318,470	
投資証券	ユーロ	CAF ユーロ・ボンド・ファン ド 毎月分配クラス	623,104.00	61,755,837.44	
		CAF ユーロ・コーポレート・ ボンド・ファンド 毎月分配クラス	2,336,504.00	248,206,819.92	
	ユーロ	小計	2,959,608.00	309,962,657.36 (42,911,230,284)	
合 計				86,157,548,754 (42,911,230,284)	

注) 1. 各種通貨ごとの小計の欄における () 内の金額は、邦貨換算額であります。

2. 合計欄における () 内の金額は、外貨建有価証券の邦貨換算額の合計額であり、内数で表示しております。

3. 外貨建有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入投資証券 時価比率	合計金額に対する比率
ユーロ	投資証券 2銘柄	100%	100%

第2 有価証券先物取引等及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「注記事項 (デリバティブ取引等関係)」に記載しております。

(参考情報)

当ファンドは「ドイツ・米国投資適格社債ファンド(適格機関投資家専用)」の受益証券、「CAF ユーロ・ボンド・ファンド 毎月分配クラス」および「CAF ユーロ・コーポレート・ボンド・ファンド 毎月分配クラス」の投資証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「証券投資信託受益証券」及び「投資証券」は、それぞれ上記投資信託の受益証券です。

「CAF ユーロ・ボンド・ファンド 毎月分配クラス」および「CAF ユーロ・コーポレート・ボンド・ファンド 毎月分配クラス」は、それぞれ「CAF EURO BOND FUND POOL」および「CAF EURO CORPORATE BOND FUND POOL」として、他のシェアクラスと合同運用されております。

なお、「ドイツ・米国投資適格社債ファンド(適格機関投資家専用)」、「CAF ユーロ・ボンド・ファンド 毎月分配クラス」および「CAF ユーロ・コーポレート・ボンド・ファンド 毎月分配クラス」の状況は次の通りです。

「ドイツ・米国投資適格社債ファンド(適格機関投資家専用)」、「CAF ユーロ・ボンド・ファンド 毎月分配クラス」および「CAF ユーロ・コーポレート・ボンド・ファンド 毎月分配クラス」の状況

以下に記載した1.「ドイツ・米国投資適格社債ファンド(適格機関投資家専用)」の状況の情報は、同投資信託の運用会社であるドイツ・アセット・マネジメント株式会社からの情報に基づき、委託会社が平成17年5月12日現在および平成17年11月14日現在で作成したものであります。したがって、決算日に作成する正式財務諸表とは同一の様式ではありません。

また、以下に記載した2.「CAF ユーロ・ボンド・ファンド 毎月分配クラス」の状況および3.「CAF ユーロ・コーポレート・ボンド・ファンド 毎月分配クラス」の状況の情報は、委託会社が同投資信託の管理会社であるCACEIS バンク ルクセンブルグ(注 平成17年10月3日付でクレディ・アグリコル インベスター・サービス・バンク・ルクセンブルグより名称変更いたしました。)及び当該投資証券の発行体であるCA ファンズ リミテッドからの情報に基づき、平成17年5月11日現在および平成17年11月11日現在の財産状況を併記したものであります。従って、現地の法律に基づいて作成された正式財務諸表とは、同一の様式ではありません。

なお、以下に記載した情報は当ファンドの財務諸表監査の対象外であります。

【請求目論見書】

1. 「ドイツ・米国投資適格社債ファンド（適格機関投資家専用）」の状況

ドイツ・米国投資適格社債ファンド（適格機関投資家専用）

(1) 貸借対照表

区分	注記 番号	(平成17年 5月12日現在)	(平成17年11月14日現在)
		金額 (円)	金額 (円)
資産の部			
流動資産			
金銭信託		154,088,175	—
コール・ローン		15,000,000	15,000,001
親投資信託受益証券		29,074,539,110	43,237,154,986
流動資産合計		29,243,627,285	43,252,154,987
資産合計		29,243,627,285	43,252,154,987
負債の部			
流動負債			
未払受託者報酬		99,363	297,657
未払委託者報酬		1,266,865	3,795,129
流動負債合計		1,366,228	4,092,786
負債合計		1,366,228	4,092,786
純資産の部			
元本			
元本	※1	31,335,070,910	42,920,125,517
剰余金			
剰余金又は欠損金(△)		△ 2,092,809,853	327,936,684
剰余金合計		△ 2,092,809,853	327,936,684
純資産合計		29,242,261,057	43,248,062,201
負債・純資産合計		29,243,627,285	43,252,154,987

(注) ドイツ・米国投資適格社債ファンド（適格機関投資家専用）の計算期間は、CA米国・ユーロ投資適格債ファンドの計算期間とは異なり、原則として毎月9日から翌月8日までであります。上記の貸借対照表は平成17年5月12日および平成17年11月14日における同ファンドの状況であります。

重要な会計方針

項目	(自 平成16年11月13日 至 平成17年 5月12日)	(自 平成17年 5月13日 至 平成17年11月14日)
有価証券の評価基準 及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価 しております。時価評価にあたって は、親投資信託受益証券の基準価額 で評価しております。	親投資信託受益証券 同左

注記事項

(貸借対照表関係)

項目	(平成17年 5月12日現在)	(平成17年11月14日現在)
※ 1 本報告書における開示対象 ファンドの期首における 当該ファンドの元本額	17,585,078,354円	31,335,070,910円
同期中追加設定元本額	13,749,992,818円	13,441,164,712円
同期中一部解約元本額	262円	1,856,110,105円
2 元本の欠損	貸借対照表上の純資産総額が 元本を下回っており、その差額は 2,092,809,853円であります。	—————

(1口当たり情報)

項目	(平成17年 5月12日現在)	(平成17年11月14日現在)
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	0.9332円 (9,332円)	1.0076円 (10,076円)

(2) 附属明細表

(平成17年11月14日現在)

種類	通貨	銘柄	証券数	評価額	備考
親投資信託 受益証券	円	ドイチェ・米国投資適格社 債マザーファンド	38,144,821,338口	43,237,154,986円	
		小計	38,144,821,338口	43,237,154,986円	
合計			38,144,821,338口	43,237,154,986円	

【請求目論見書】

(ドイツ・米国投資適格社債マザーファンドの概況)

貸借対照表

区分	注記 番号	(平成17年 5月12日現在)	(平成17年11月14日現在)
		金額 (円)	金額 (円)
資産の部			
流動資産			
預金		428,016,181	66,323,271
コール・ローン		209,727,163	1,628,269
社債券		28,311,591,427	42,493,171,079
未収入金		59,137,826	—
未収利息		355,571,099	631,740,249
前払費用		78,813,496	57,035,611
流動資産合計		29,442,857,192	43,249,898,479
資産合計		29,442,857,192	43,249,898,479
負債の部			
流動負債			
派生商品評価勘定		454,512	—
未払金		365,404,010	—
流動負債合計		365,858,522	—
負債合計		365,858,522	—
純資産の部			
元本			
元本	※ 1	28,591,579,741	38,154,617,087
剰余金			
剰余金		485,418,929	5,095,281,392
剰余金合計		485,418,929	5,095,281,392
純資産合計		29,076,998,670	43,249,898,479
負債・純資産合計		29,442,857,192	43,249,898,479

注記事項

(貸借対照表関係)

項目	(平成17年 5月12日現在)	(平成17年11月14日現在)
※1 本報告書における開示対象 ファンドの期首における当 該マザーファンドの元本額	16,542,618,829円	28,591,579,741円
同期中追加設定元本額	12,048,960,912円	10,670,391,504円
同期中解約元本額	— 円	1,107,354,158円
元本の内訳		
ドイチェ・米国投資適格社債フ ァンド(適格機関投資家専用)	28,588,534,032円	38,144,821,338円
ドイチェ・米国投資適格社債フ ァンドVA(適格機関投資家専 用)	3,045,709円	9,795,749円
合計	28,591,579,741円	38,154,617,087円

(1口当たり純資産額)

項目	(平成17年5月12日現在)	(平成17年11月14日現在)
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.0170円 (10,170円)	1.1335円 (11,335円)

【請求目論見書】

ドイツ・米国投資適格社債マザーファンドの保有資産明細（上位20銘柄）

（平成17年11月14日現在）

種類	通貨	銘柄名	額面	評価額
債券	アメリカドル	LEH 8.8% 03/01/15	8,500,000	10,591,657.90
		KFT 7.55% 06/15/15	5,500,000	6,392,267.20
		XEL 8% 08/28/12	5,000,000	5,807,677.00
		AIG 6.375% 03/15/09	5,500,000	5,658,125.00
		C 6.625% 06/15/32	5,000,000	5,519,435.00
		ED 7.5% 09/01/10	5,000,000	5,515,420.50
		SBC 7% 07/01/15	5,000,000	5,463,349.50
		HSBC 7.5% 07/15/09	4,500,000	4,862,250.00
		BAC 7.8% 09/15/16	4,000,000	4,782,077.60
		CCU 8% 11/01/08	4,500,000	4,781,316.15
		LMT 7.65% 05/01/16	4,000,000	4,744,880.00
		CIT 7.375% 04/02/07	4,500,000	4,646,700.00
		MON 7.375% 08/15/12	4,000,000	4,504,560.80
		TWX 7.25% 10/15/17	4,000,000	4,504,108.40
		KRB 7.5% 03/15/12	4,000,000	4,499,578.40
		D 7.195% 09/15/14	4,000,000	4,443,270.40
		EXC 6.95% 06/15/11	4,000,000	4,297,668.00
		BAC 7.125% 03/01/09	4,000,000	4,267,145.20
		GE 6.9% 09/15/15	3,750,000	4,220,237.62
		BHP 8.5% 12/01/12	3,500,000	4,199,422.50

2. 「CAF ユーロ・ボンド・ファンド 毎月分配クラス」の状況

(1) 本有価証券報告書開示対象ファンドの投資先シェアクラス（CAF ユーロ・ボンド・ファンド 毎月分配クラス）の情報

	平成17年5月11日現在	平成17年11月11日現在
1口当たり純資産額 (当初元本は1口当たり100ユーロ)	102.25ユーロ	99.11ユーロ
各基準日における元本口数	424,754.711口	632,853.095口
うち、本有価証券報告書開示対象ファンド の保有口数	417,452口	623,104口
純資産総額	43,431,926.18ユーロ	62,719,382.17ユーロ

(2) CAF EURO BOND FUND POOL 貸借対照表

区分	注記 番号	(平成17年5月11日現在)	(平成17年11月11日現在)
		金額 (ユーロ)	金額 (ユーロ)
資産の部			
預金		6,596,442.31	7,042,763.62
有価証券		453,897,078.21	350,856,006.20
未収入金		17,791,812.62	10,922,199.82
資産合計		478,285,333.14	368,820,969.64
負債及び純資産の部			
借入金		—	66,235.77
未払金		78,469,520.49	35,462,933.03
純資産		399,815,812.65	333,291,800.84
負債及び純資産合計		478,285,333.14	368,820,969.64

【請求目論見書】

CAF EURO BOND FUND POOLの保有資産明細（上位20銘柄）

（平成17年11月11日現在）

種類	銘柄名	額面	評価額（ユーロ）
債券	ITALY BTP 4.50 04-20 01/02S	21,500,000	22,867,781.63
	HELLENIC REPUBLIC 2.90 05-08 21/06A	20,000,000	19,978,141.20
	FRANCE OAT STRIP 0.00 91-18 25/10U	29,032,000	17,999,840.00
	FRANCE OAT 4.00 04-55 25/04A	15,250,000	15,627,414.62
	BRD 6.50 97-27 04/07A	10,000,000	13,886,990.00
	HELLENIC REPUBLIC 3.25 04-07 21/06A	12,000,000	12,090,540.00
	FRANCE OAT INDEX 3.00 01-12 25/07A	10,000,000	12,051,950.96
	GERMANY -145- 3.50 04-09 09/10A	10,000,000	10,171,271.30
	GERMANY -143- 3.50 03-08 10/10A	10,000,000	10,168,435.00
	BANESTO 3.00 05-12 18/10A	9,000,000	8,751,843.00
	CAJA MADRID EMTN 3.75 03-09 22/10A	8,400,000	8,588,909.70
	BELGIUM OLO 5.50 98-28 28/03A	6,500,000	8,080,717.12
	HELLENIC REPUBLIC 3.25 04-07 21/06A	8,000,000	8,060,360.00
	GREECE 4.60 03-13 20/05A	7,500,000	8,023,563.75
	LA CAIXA 3.25 05-15 05/10A	8,300,000	7,984,304.35
	BANESTO SA 4.00 03-10 12/05A	7,500,000	7,742,774.10
	FRANCE OAT 3.75 05-21 25/04A	7,600,000	7,598,380.29
	ARGENTARIA CAJA POSTAL4.375 99-09 30/03A	6,500,000	6,741,143.50
	BSCH 2.50 05-11 28/01A	7,000,000	6,735,033.41
	HYP-BANK ESSEN 2.875 05-10 17/08A	6,000,000	5,905,560.00

3. 「CAF ユーロ・コーポレート・ボンド・ファンド 毎月分配クラス」の状況

(1) 本有価証券報告書開示対象ファンドの投資先シェアクラス (CAF ユーロ・コーポレート・ボンド・ファンド 毎月分配クラス) の情報

	平成17年5月11日現在	平成17年11月11日現在
1口当たり純資産額 (当初元本は1口当たり100ユーロ)	108.52ユーロ	106.23ユーロ
各基準日における元本口数	1,572,717.793口	2,337,514.742口
うち、本有価証券報告書開示対象ファンド の保有口数	1,572,226口	2,336,504口
純資産総額	170,673,980.02ユーロ	248,324,497.92ユーロ

(2) CAF EURO CORPORATE BOND FUND POOL 貸借対照表

区分	注記 番号	(平成17年5月11日現在)	(平成17年11月11日現在)
		金額 (ユーロ)	金額 (ユーロ)
資産の部			
預金		47,437,692.65	8,412,131.34
有価証券		693,518,162.55	1,095,746,541.16
未収入金		25,045,534.42	39,986,804.08
資産合計		766,001,389.62	1,144,145,476.58
負債及び純資産の部			
未払金		43,946,728.57	81,809,462.11
純資産		722,054,661.05	1,062,336,014.47
負債及び純資産合計		766,001,389.62	1,144,145,476.58

【請求目論見書】

CAF EURO CORPORATE BOND FUND POOLの保有資産明細（上位20銘柄）

（平成17年11月11日現在）

種類	銘柄名	額面	評価額（ユーロ）
債券	FRANCE OAT 3.00 04-15 25/10A	60,000,000	57,277,267.80
	ITALY BUONI DEL TESO 5.00 03-34 01/08S	37,000,000	42,396,255.75
	FRANCE TELECOM EMTN 7.25 03-13 28/01A	30,000,000	36,368,655.00
	VOLKSWAGEN FIN. EMTN 4.875 02-08 10/03A	30,000,000	31,170,526.80
	FRANCE OAT IPMT8.5(23)0.00 92-18 25/04U	46,875,000	30,000,000.00
	DEUTSCHE TEL. INTL FIN 8.125 02-12 29/05A	20,000,000	24,958,630.00
	HELLENIC REPUBLIC 3.25 04-07 21/06A	20,000,000	20,150,900.00
	FRANCE OAT 3.75 05-21 25/04A	20,000,000	19,995,737.60
	KONINKLIJKE KPN NV 4.50 04-11 21/07A	18,100,000	18,717,395.53
	IBERDROLA INTL EMTN 4.375 03-10 29/10A	15,000,000	15,629,256.60
	BBVA 2.75 05-10 07/06A	15,000,000	14,702,503.20
	OLIVETTI FINANCE EMTN 7.75 03-33 24/01A	10,000,000	13,472,621.30
	DR. BK (CITY OF MOCCOW) 6.45 04-11 12/10A	11,000,000	12,250,224.25
	BRITISH TELECOM 7.125 01-11 15/02A	10,000,000	11,697,463.10
	COMMERZBANK S.271 6.50 00-10 12/07A	10,000,000	11,282,029.40
	PEMEX PROJECT FD REGS 6.625 03-10 04/04A	10,000,000	11,128,213.80
	HUTCHISON WHAMP. FIN 5.875 03-13 08/07A	10,000,000	11,113,007.50
	VINCI REG-S 5.875 02-09 22/07A	10,000,000	10,827,902.50
	CNCEP EMTN SUB FL. R 03-XX 30/07A	10,000,000	10,805,458.10
	VEOLIA ENV. EMTN REGS 4.875 03-13 28/05A	10,000,000	10,717,006.30

2 ファンドの現況

純資産額計算書

平成17年12月30日現在

I 資産総額	89,284,461,704円
II 負債総額	370,340,759円
III 純資産総額 (I - II)	88,914,120,945円
IV 発行済数量	85,973,058,882口
V 1単位当たり純資産額 (III/IV)	10,342円

第5 設定及び解約の実績

期 間		設定数量 (単位：口)	解約数量 (単位：口)	発行済数量 (単位：口)
第1 特定期間	自 平成15年11月14日 至 平成16年5月12日	12,690,117,757	598,560,507	12,091,557,250
第2 特定期間	自 平成16年5月13日 至 平成16年11月12日	23,424,348,960	1,145,386,296	34,370,519,914
第3 特定期間	自 平成16年11月13日 至 平成17年5月12日	27,865,825,007	1,650,058,748	60,586,286,173
第4 特定期間	自 平成17年5月13日 至 平成17年11月14日	28,707,056,711	3,601,940,445	85,691,402,439
第5 特定期間中	自 平成17年11月15日 至 平成17年12月12日	1,672,382,305	1,421,702,025	85,942,082,719

(注1) 全て本邦内におけるものです。

(注2) 第1特定期間の設定数量には、当初設定口数 (3,096,992,993口) を含みます。



愛称:りそな

ペア・インカム